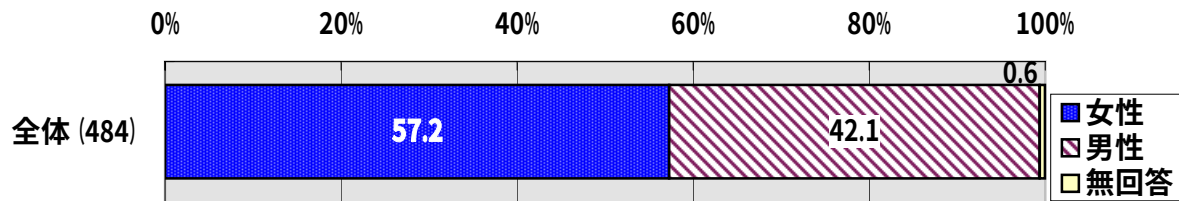


調 査 の 結 果

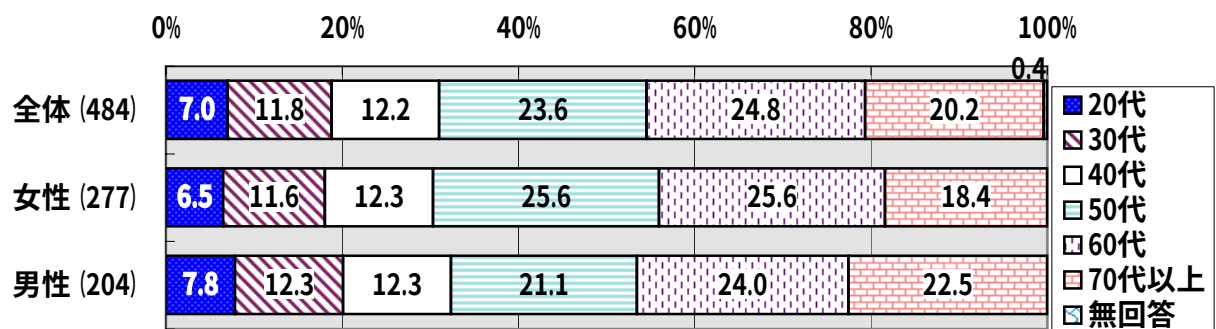
II 調査の結果

1. 回答者のプロフィール

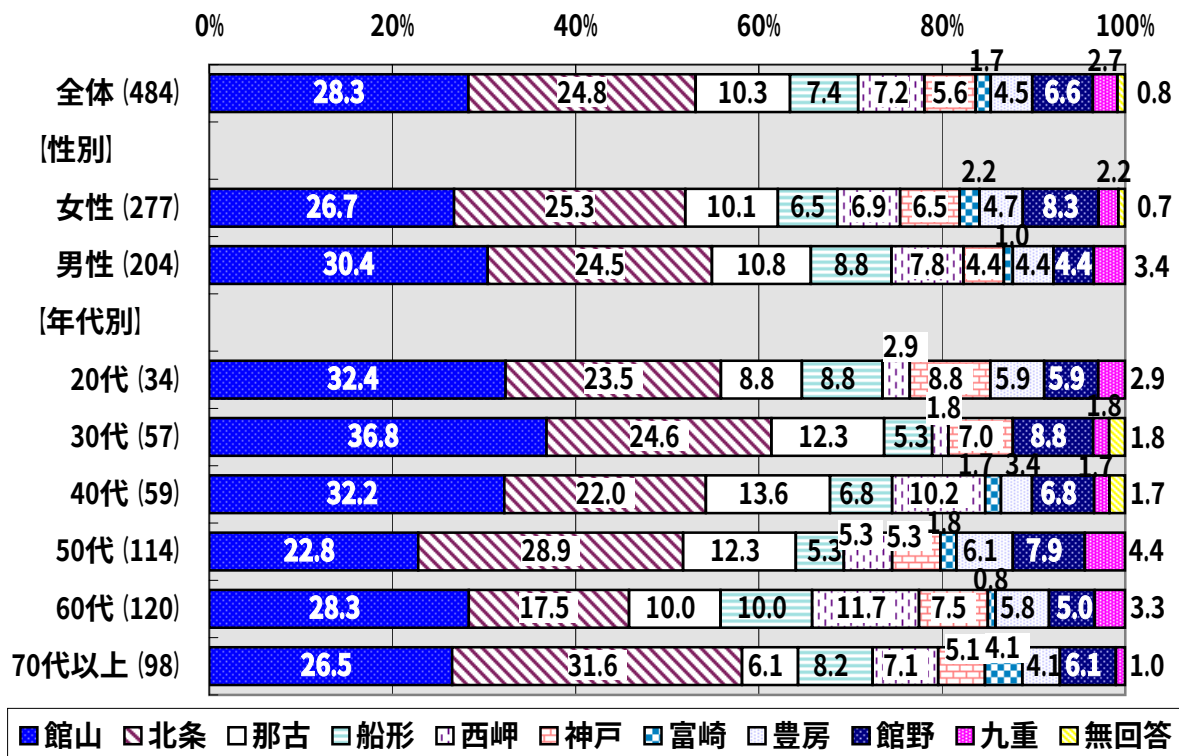
(1) 性別



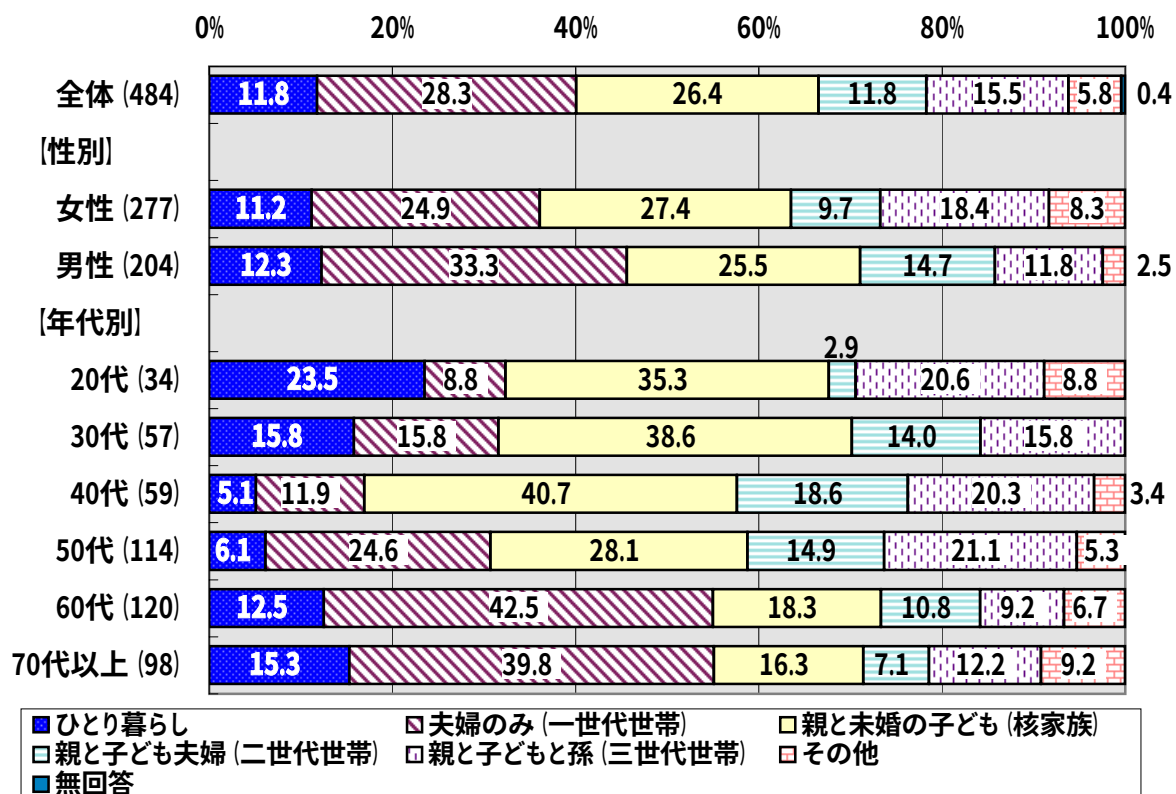
(2) 年齢構成



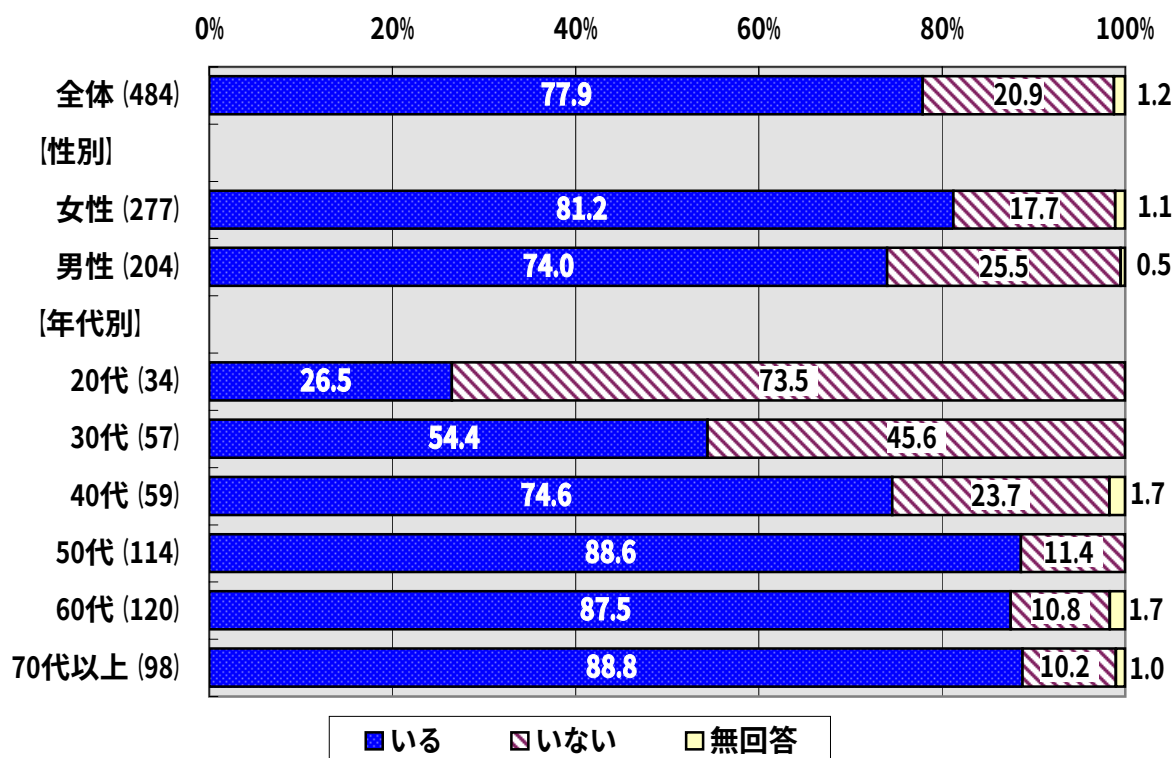
(3) 地区構成



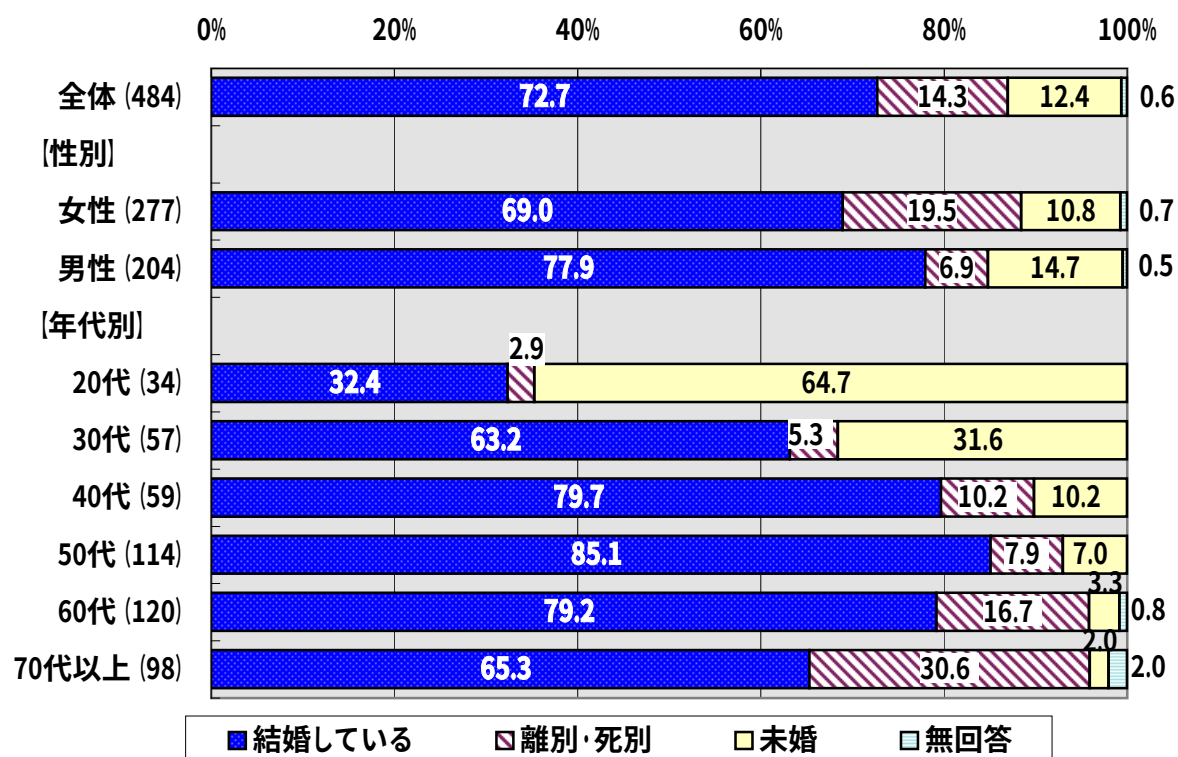
(4) 世帯構成



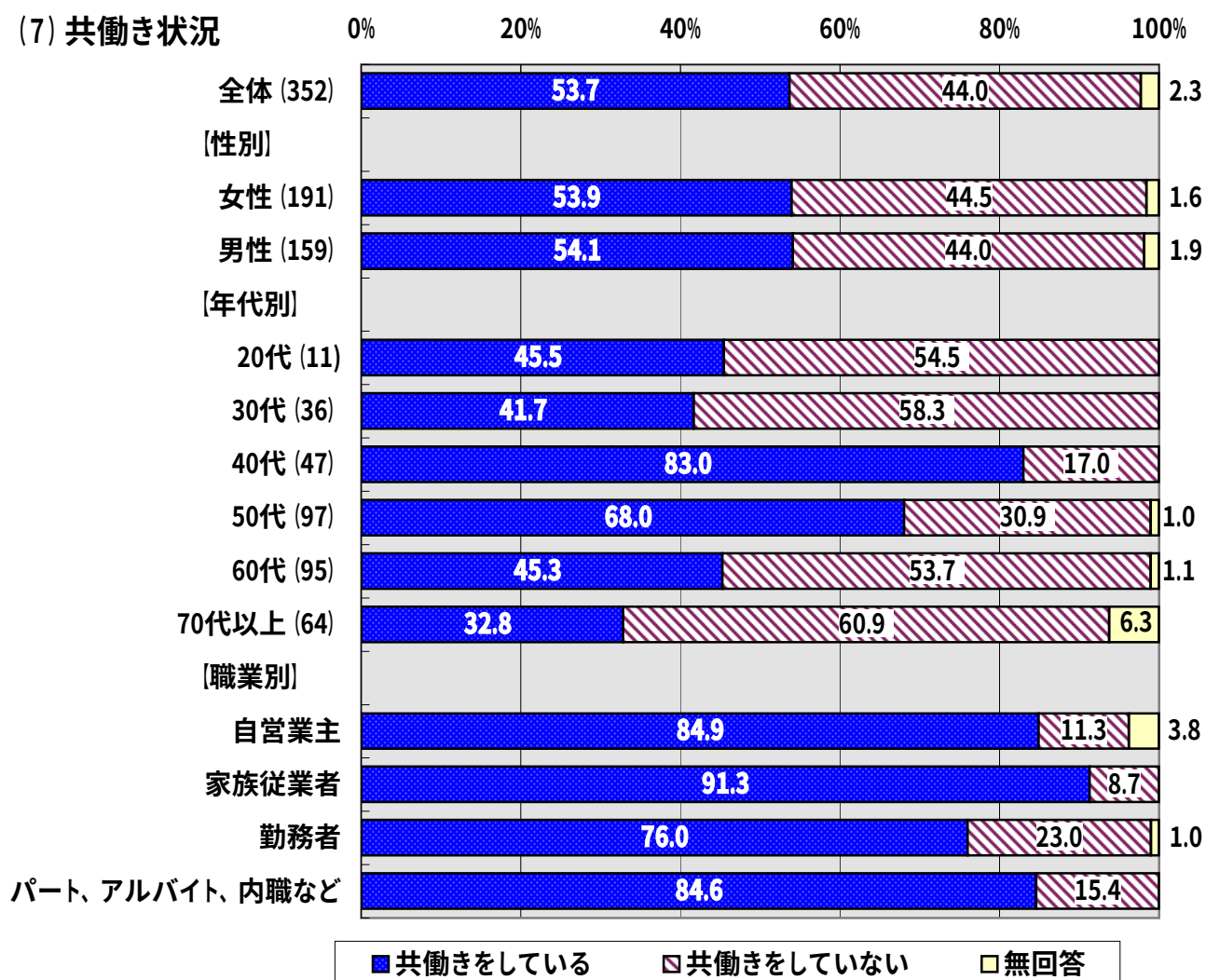
(5) 子どもの有無



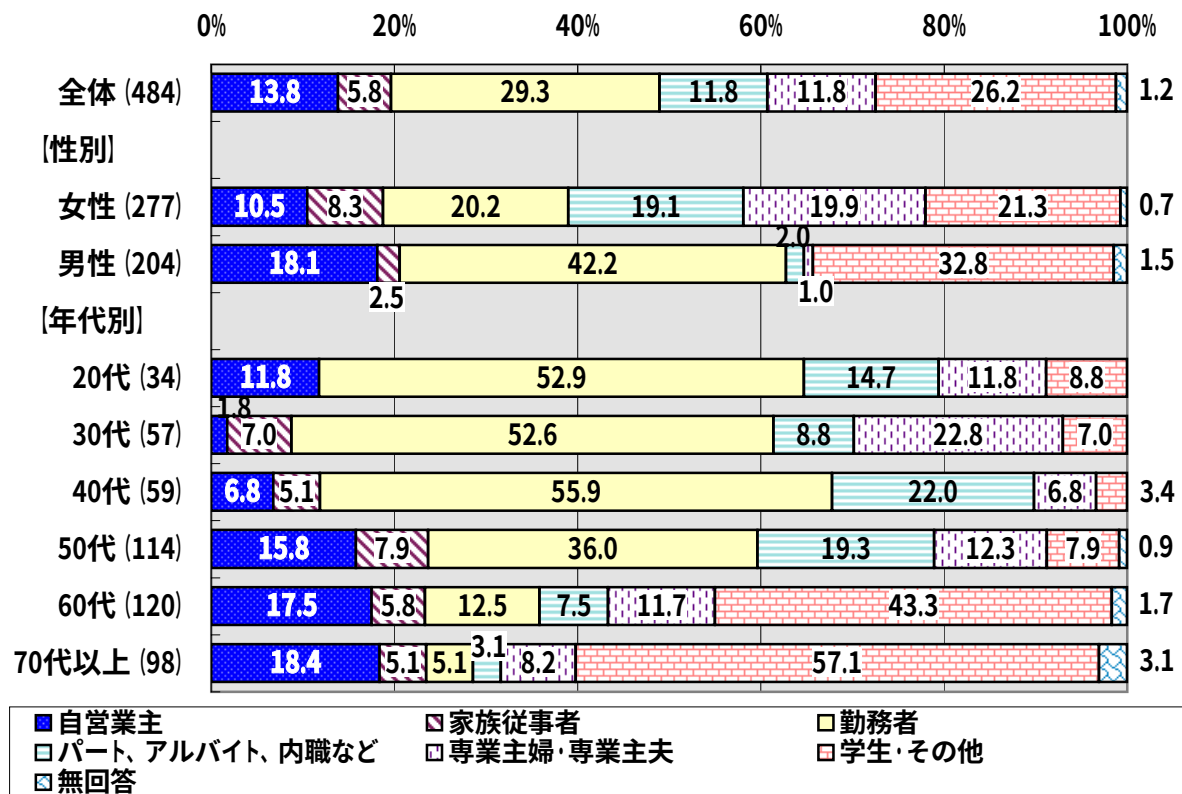
(6) 配偶者関係



(7) 共働き状況



(8) 職業構成

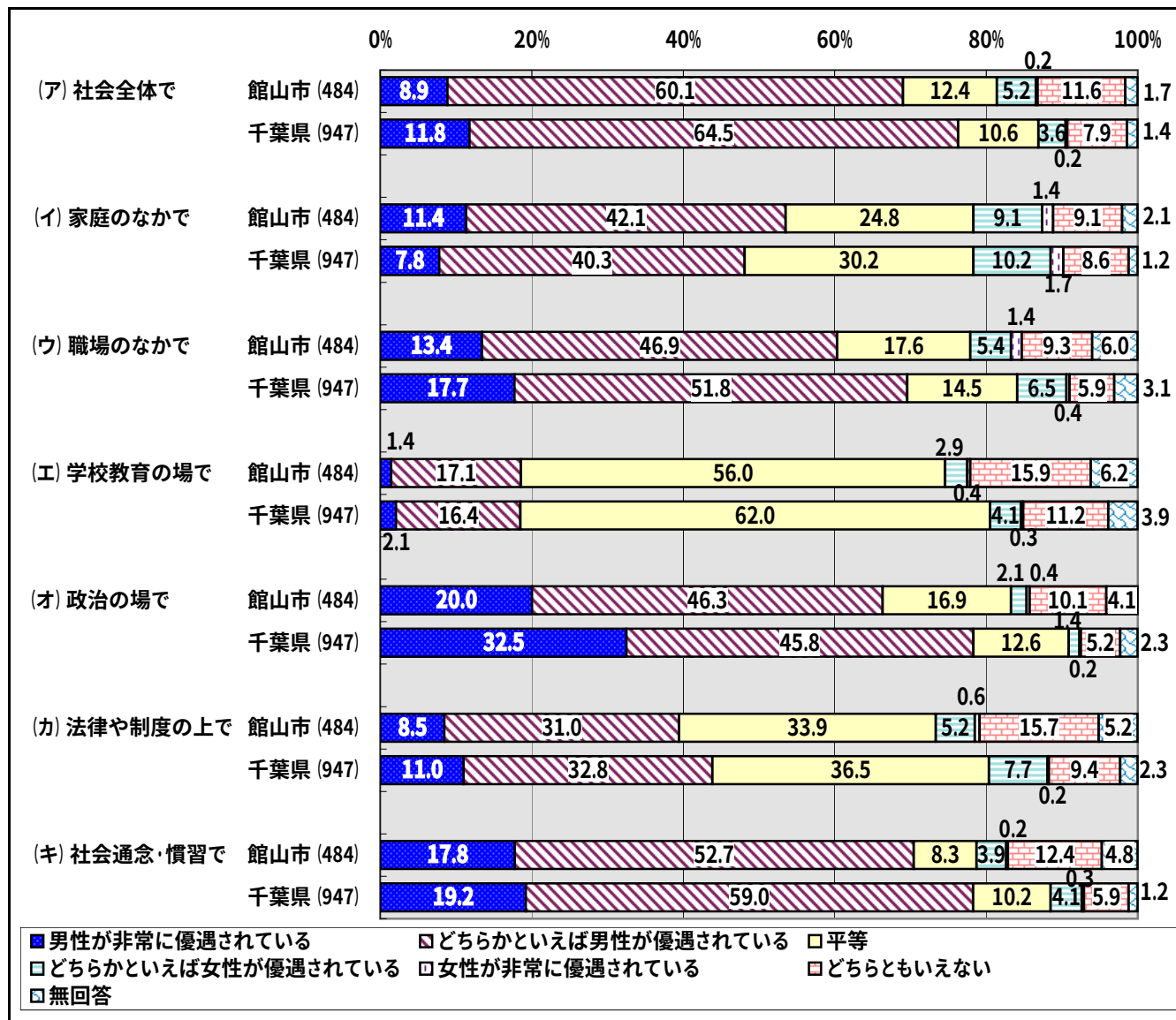


2. 男女平等意識

(1) 男女の平等意識

問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。次の(ア)～(キ)のそれぞれについてあなたの考えに最も近いものを1つずつ選んでください。

『男性優遇』の割合が高いのは、特に「社会全体で」、「政治の場で」、「社会通念・慣習で」においてである。



「社会全体で」、「家庭のなかで」、「職場のなかで」、「学校教育の場で」、「政治の場で」、「法律や制度の上で」、「社会通念・慣習で」の7分野について、男女の地位が平等になっているかどうかを聞いたところ、「学校教育の場で」を除くすべての分野で『男性優遇』と回答している割合が最も高くなっている。特に「社会全体で」、「職場のなかで」、「政治の場で」、「社会通念・慣習で」は、6割以上の人々が『男性優遇』と回答している。

逆に「学校教育の場で」は、半数以上の56.0%が『平等』と回答している。

【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、若干の差はあるものの、すべての分野で千葉県とほぼ同じ意識の傾向がある。しかし、「社会全体で」、「職場のなかで」、「政治の場で」、「法律や制度の上で」、「社会通念・慣習で」の男女の地位が平等になっているかでは、館山市の方が『男性優遇』と回答している割合が低くなっている。また、「社会全体で」、「職場のなかで」、「政治の場で」は、館山市の方が『平等』と回答している割合が高くなっている。

・『男性優遇』＝「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計
 ・『女性優遇』＝「どちらかといえば女性が優遇されている」「女性が非常に優遇されている」の合計

(ア) 社会全体で

女性の74.8%、男性の61.8%が『男性優遇』と回答しており、男女ともに不平等と感じる割合が高くなっているが、女性の方が男性より13ポイント高い傾向にある。

【年代別】

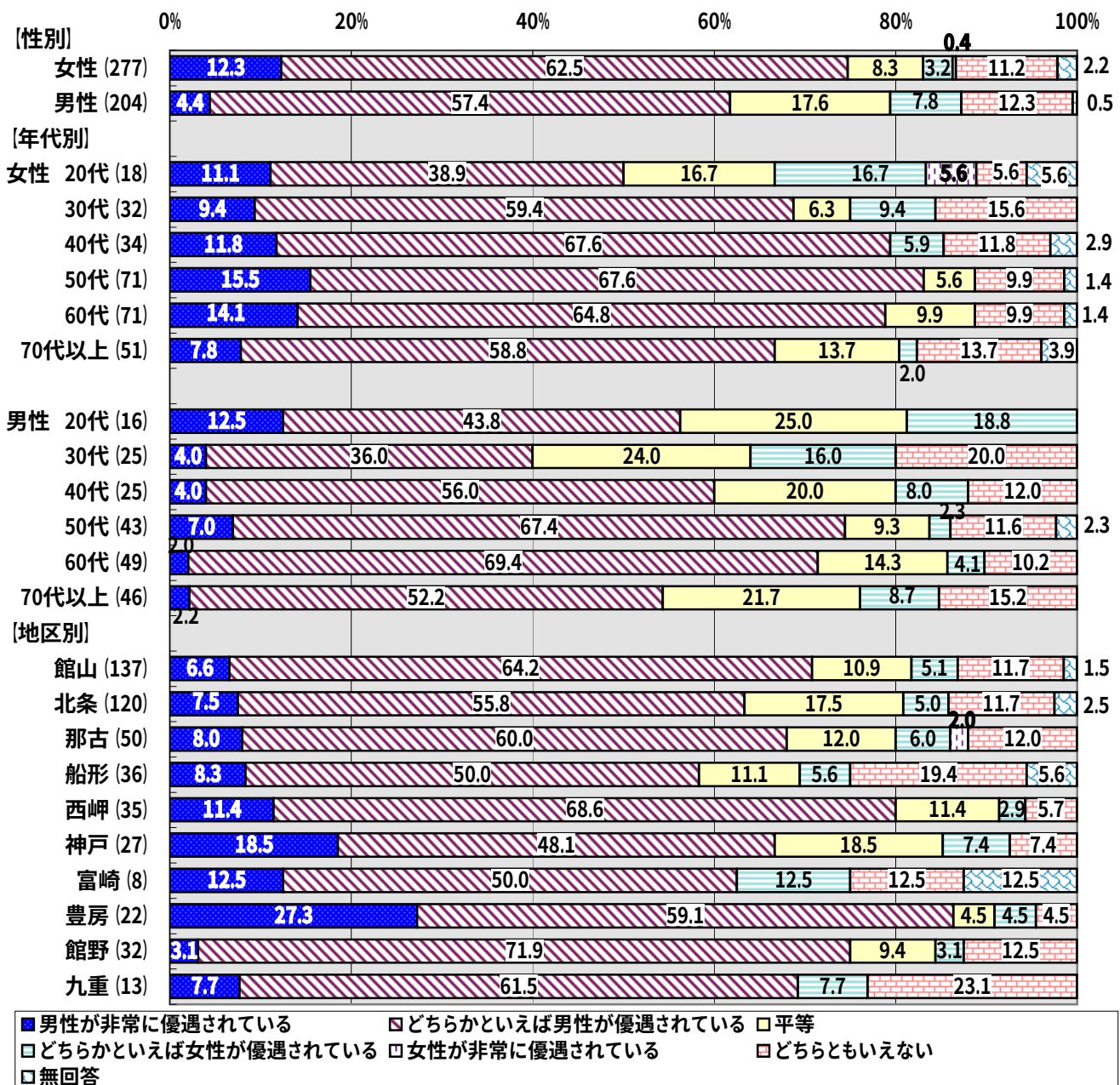
全体を通して『男性優遇』の割合が高く、中でも女性の50代(83.1%)、40代(79.4%)、60代(78.9%)が高くなっているのに対し、男性の30代が40.0%と最も低くなっており、男女の差が大きくなっている。

また、男女ともに20代での、『平等』(女性16.7%、男性25.0%)、及び『女性優遇』(女性22.3%、男性18.8%)の割合が、最も高くなっている。

【地区別】

全体を通じて『男性優遇』の割合が高くなっており、「北条」、「船形」、「富崎」以外の地区では、2/3以上の人々が『男性優遇』と回答している。

また、「富崎」のみで、『女性優遇』と回答している割合が二桁の12.5%であり、最も高くなっている。



(イ) 家庭のなかで

男女ともに《男性優遇》が『平等』の割合を上回っているが、その割合にはかなりの差があり、女性の62.5%に対して、男性は41.7にとどまっている。逆に、『平等』は女性の18.4%に対し、男性は33.3%となっている。

[年代別]

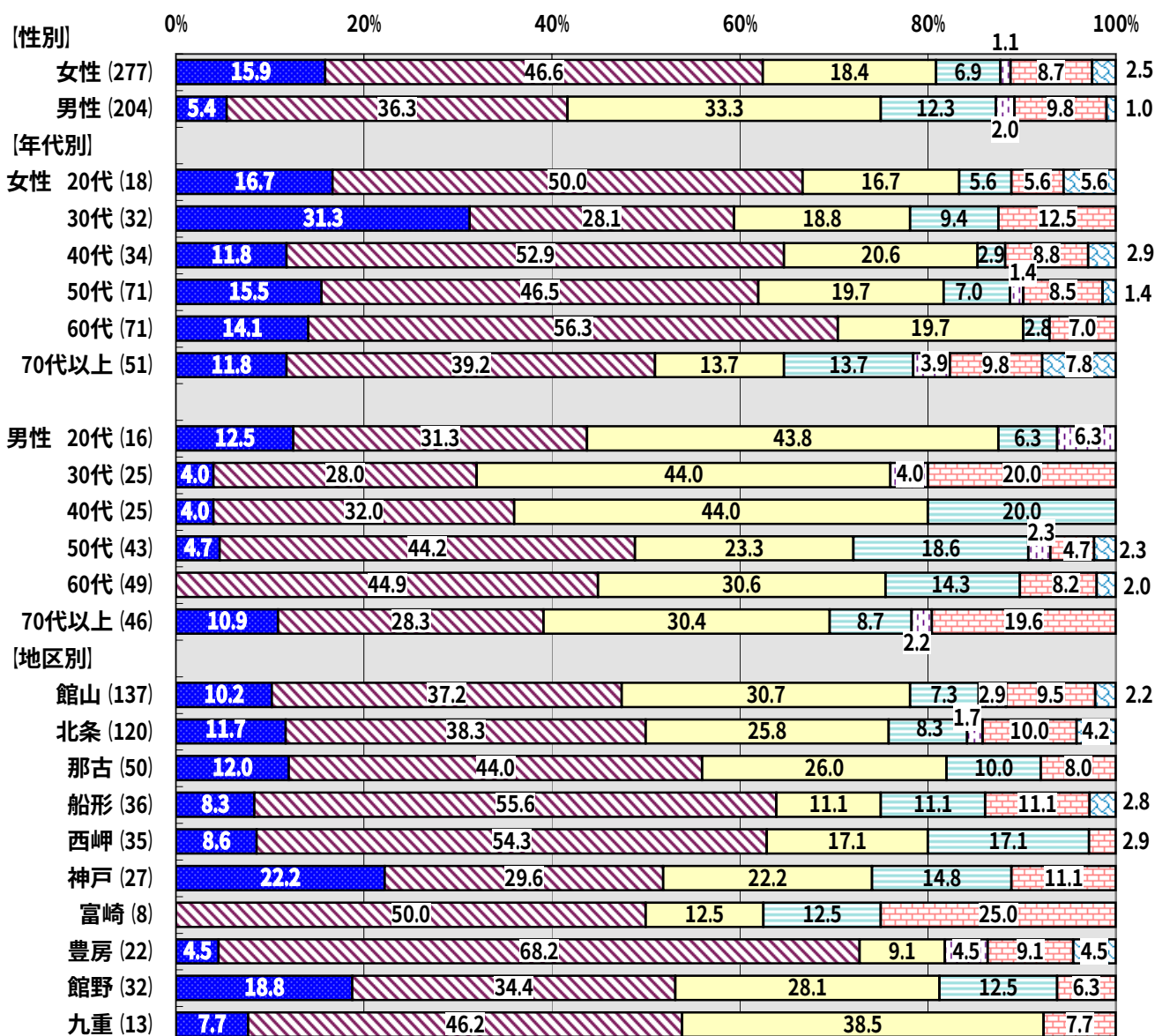
女性では、各年代で過半数以上が《男性優遇》と回答しており、中でも60代(70.4%)で不平等感が最も強くなっている。

また、男性の30代、40代では、『平等』が《男性優遇》よりも高くなっている。

[地区別]

《男性優遇》と回答している割合は、「豊房」(72.7%)が他の地区に比べ、最も高くなっている。

また、『平等』と回答している割合は、「九重」が最も高く38.5%であるのに対し、「豊房」は最も低く9.1%となっている。その差は29.4ポイントであり、地区による差が大きくなっている。



■ 男性が非常に優遇されている □ どちらかといえば男性が優遇されている □ 平等
 □ どちらかといえば女性が優遇されている □ 女性が非常に優遇されている □ どちらともいえない
 □ 無回答

(ウ) 職場のなかで

女性の63.9%、男性の55.9%が『男性優遇』と回答しており、女性の方が不平等感を感じている割合が8.0ポイント高くなっている。

【年代別】

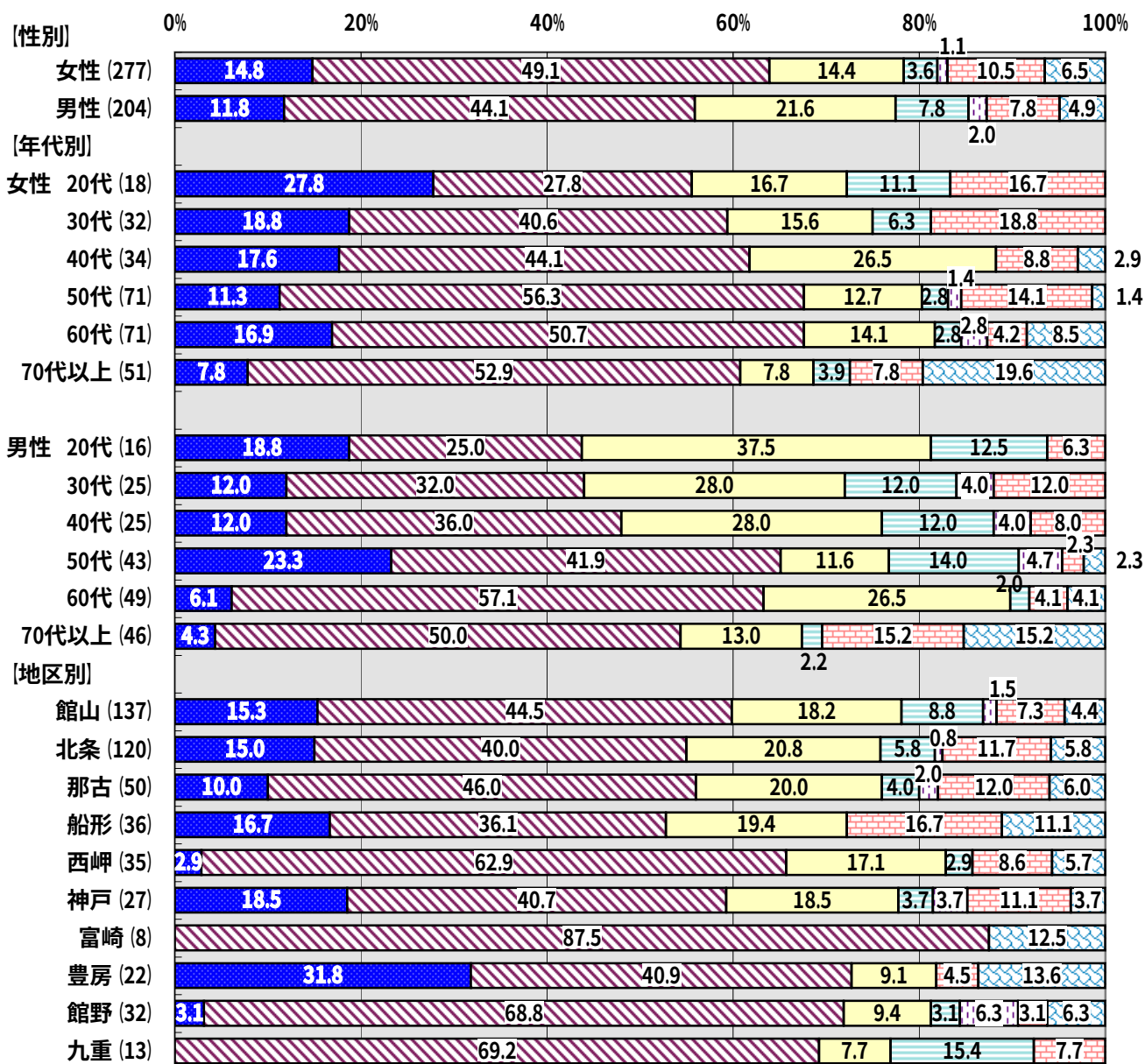
男性の20代、30代、40代を除くすべての年代で、『男性優遇』と回答している割合は半数以上である。特に女性の50代、60代が共に67.6%で最も高くなっている。

また、『平等』と回答している割合は、男性の20代(37.5%)で最も高く、『女性優遇』は男性の50代(18.7%)が他の年代に比べ高くなっている。

【地区別】

すべての地区で『男性優遇』と回答している割合が高いが、特に「富崎」(87.5%)が最も高くなっている。

また、『平等』と回答している割合は、「北条」(20.8%)、「那古」(20.0%)が2割を超え高くなっている。



☒ 男性が非常に優遇されている ☐ どちらかといえば男性が優遇されている ☐ 平等
☐ どちらかといえば女性が優遇されている ☐ 女性が非常に優遇されている ☐ どちらともいえない
☐ 無回答

(エ) 学校教育の場で

この項目のみ、『平等』が女性52.3%、男性60.8%となっており、『男性優遇』（女性20.6%、男性16.2%）をそれぞれ大きく上回っている。

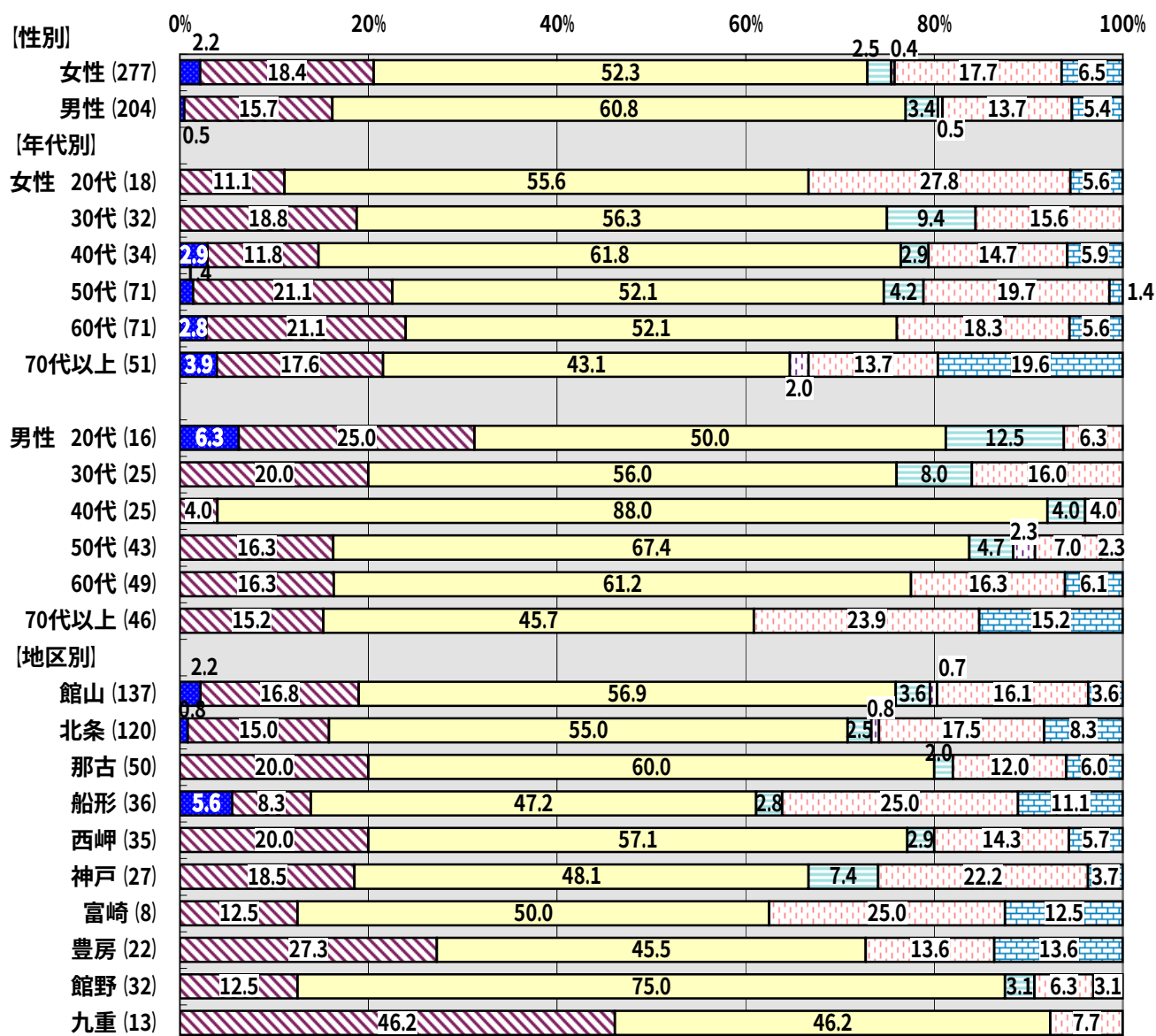
【年代別】

男女とも70代以上を除き、『平等』が過半数を占めている。特に、男性の40代が88.0%と、他の年代に比べ高くなっている。

【地区別】

「九重」のみ『男性優遇』と『平等』が同割合であるが、それ以外の地区では、『平等』と回答している割合が最も高くなっている。特に「館野」で『平等』と回答している割合は、75.0%と最も高くなっている。

また、「九重」で『男性優遇』と回答している割合は46.2%となっており、他地区よりも約2倍の高さになっている。



■ 男性が非常に優遇されている □ どちらかといえば男性が優遇されている □ 平等
 □ どちらかといえば女性が優遇されている □ 女性が非常に優遇されている □ どちらともいえない
 ■ 無回答

(オ) 政治の場で

女性では73.6%が『男性優遇』と回答しているのに対し、男性は56.9%となっている。また、『平等』は女性10.1%であるのに対し、男性では26.0%と2倍以上になっており、男女間に意識の差がみられる。

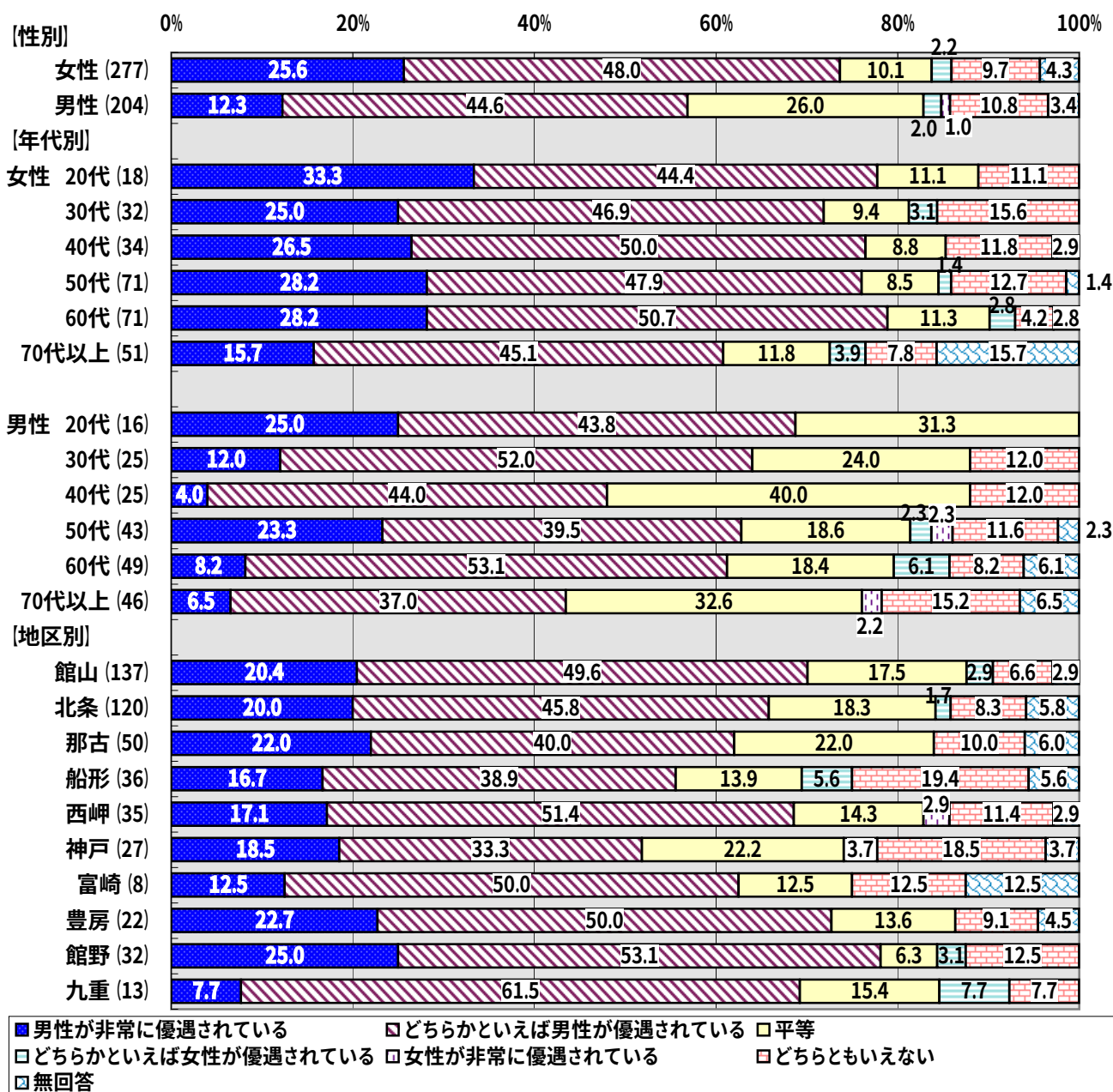
【年代別】

男性の40代、70代以上を除くすべての年代で、『男性優遇』と回答している割合が60%を超えている。

また、『男性優遇』はすべての年代で、女性よりも男性の方が低くなっている。

【地区別】

すべての地区で、『男性優遇』と回答している割合が過半数を超えている。「館野」が最も高く78.1%であるのに対し、「神戸」は51.8%と最も低く、その差は26.3ポイントであり、地区により意識の差が大きくなっている。



(カ) 法律や制度の上で

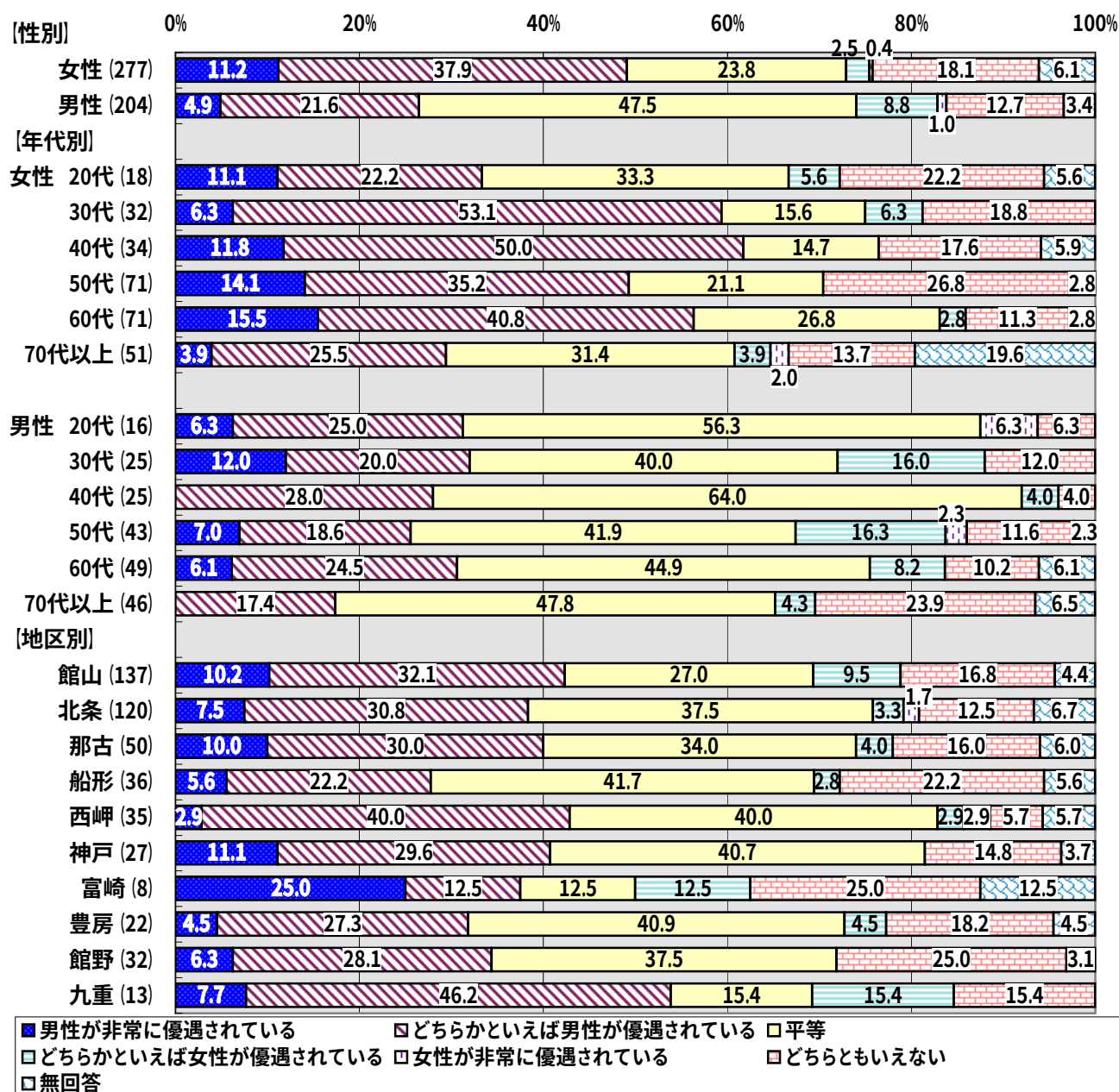
女性では《男性優遇》と回答している割合が49.1%であるのに対し、男性では26.5%となっている。また、『平等』は女性が23.8%となっているのに対し、男性では47.5%となっており、男女間で全く逆の意識があることがわかる。

【年代別】

女性の30代、40代、60代で《男性優遇》と回答している割合が過半数以上となっている。一方、男性はすべての年代で『平等』と回答している割合が最も高くなっている。

【地区別】

地区により意識の差が異なり、「船形」、「豊房」、「館野」で『平等』と回答した割合が最も高くなっているのに対し、それ以外の地区は《男性優遇》と回答した割合が高くなっている。「神戸」のみ、《男性優遇》と『平等』が同割合であることがわかる。



(キ) 社会通念・慣習で

女性の71.8%、男性の69.1%が《男性優遇》と回答しており、男女とも不平等と感じている割合が高くなっている。

【年代別】

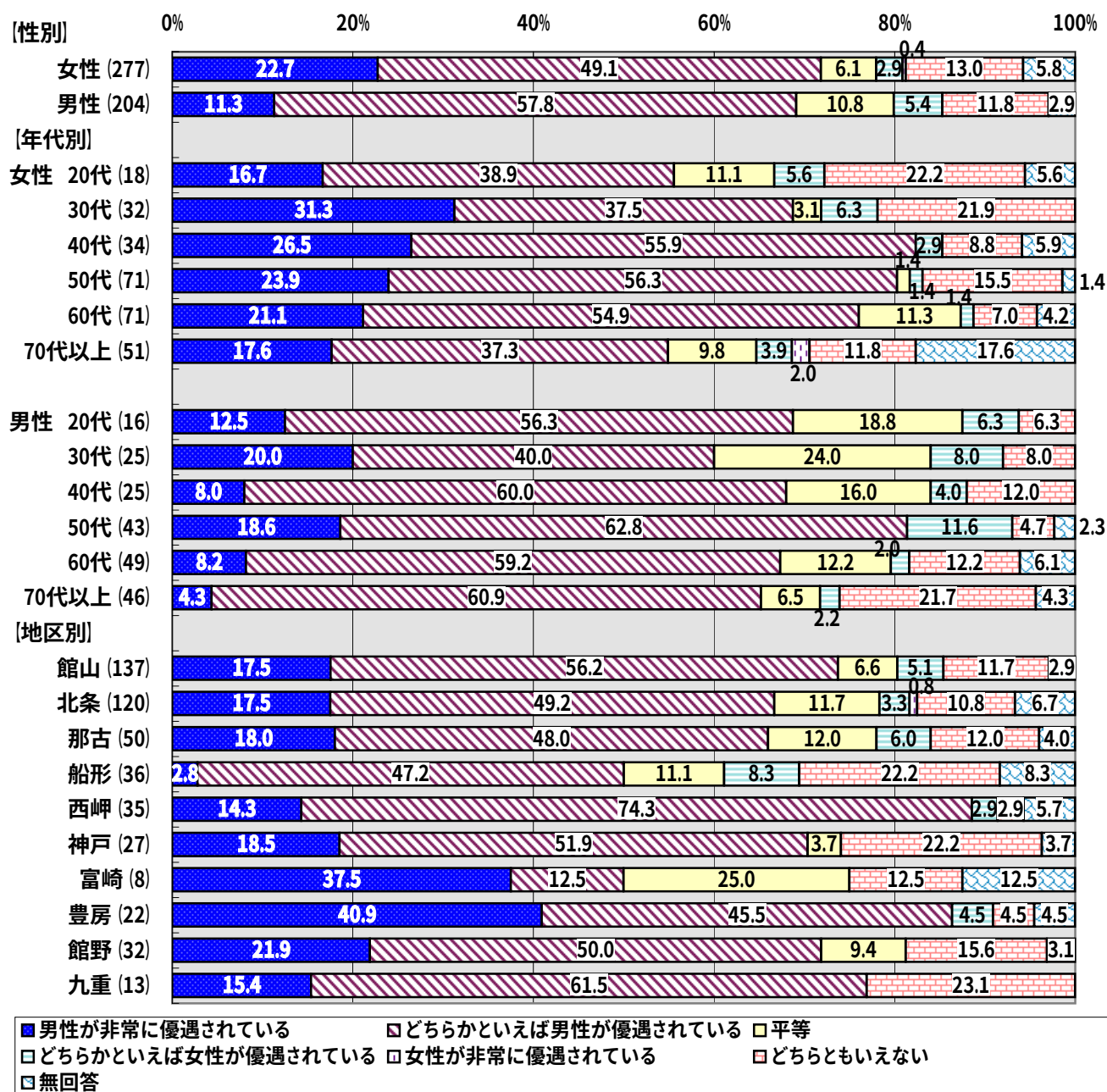
女性の40代(82.4%)、50代(80.2%)、及び男性の50代(81.4%)で《男性優遇》と回答している割合が、8割以上と高くなっている。

また、『平等』と回答している割合は、男性の30代(24.0%)で最も高くなっている。

男女とも70代以上を除くすべての年代で、男性の方が女性よりも《女性優遇》と回答している。

【地区別】

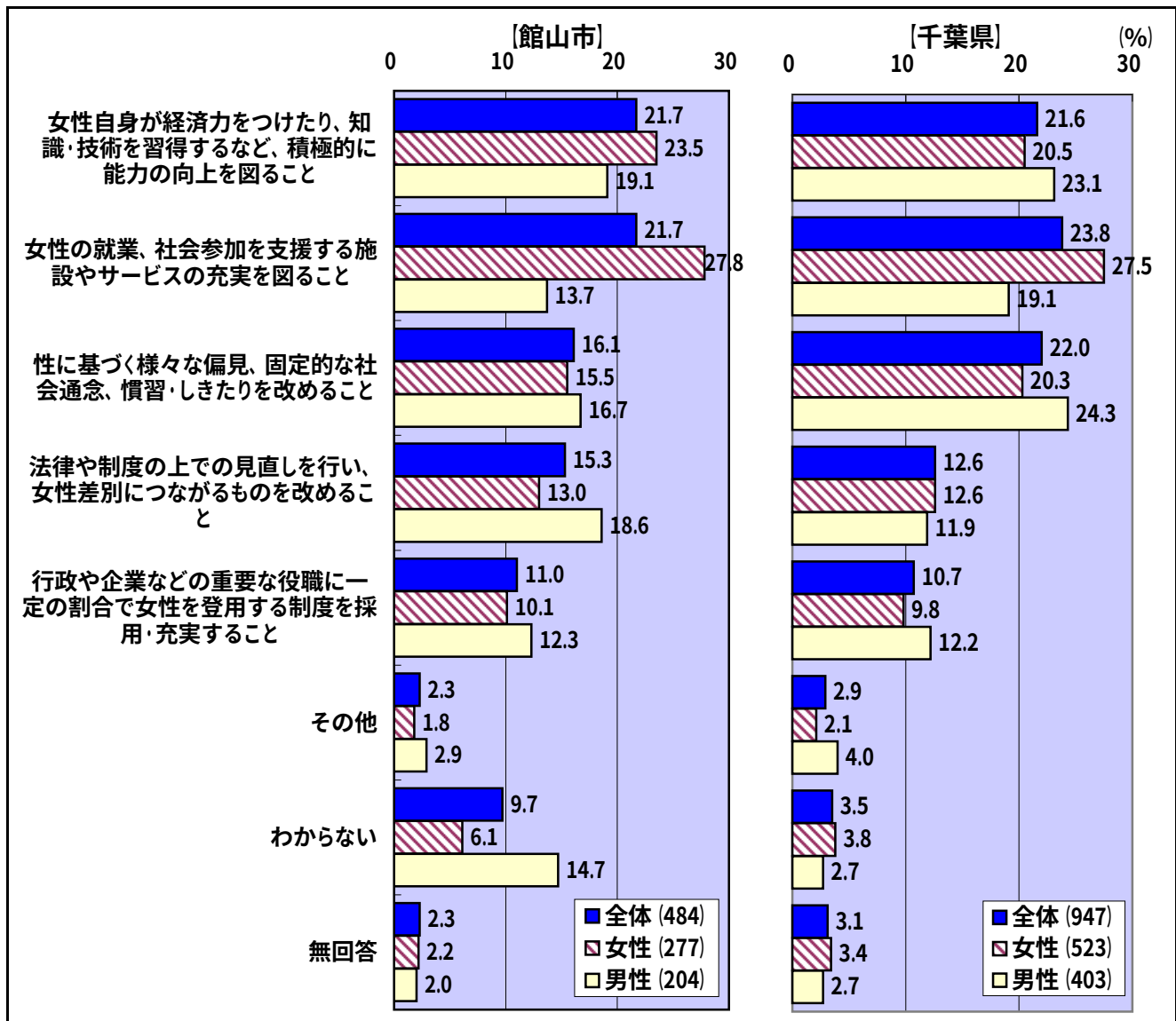
すべての地区で、半数以上が《男性優遇》と回答している。しかし、「西岬」で《男性優遇》と回答している割合が88.6%と最も高いのに対し、「船形」「富崎」は共に50.0%と最も低く、その差は38.6ポイントと大きくなっている。



(2) 平等になるために重要なこと

問2 今後、あなたが、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要と思うことは何でしょうか。次の中から1つ選んでください。

男女が平等になるために最も重要と思われることは、『女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること』である。



男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要なことでは、女性は、『女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること』が27.8%と最も多く、次いで『女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること』(23.5%)、『性に基づく様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること』(15.5%)となっている。

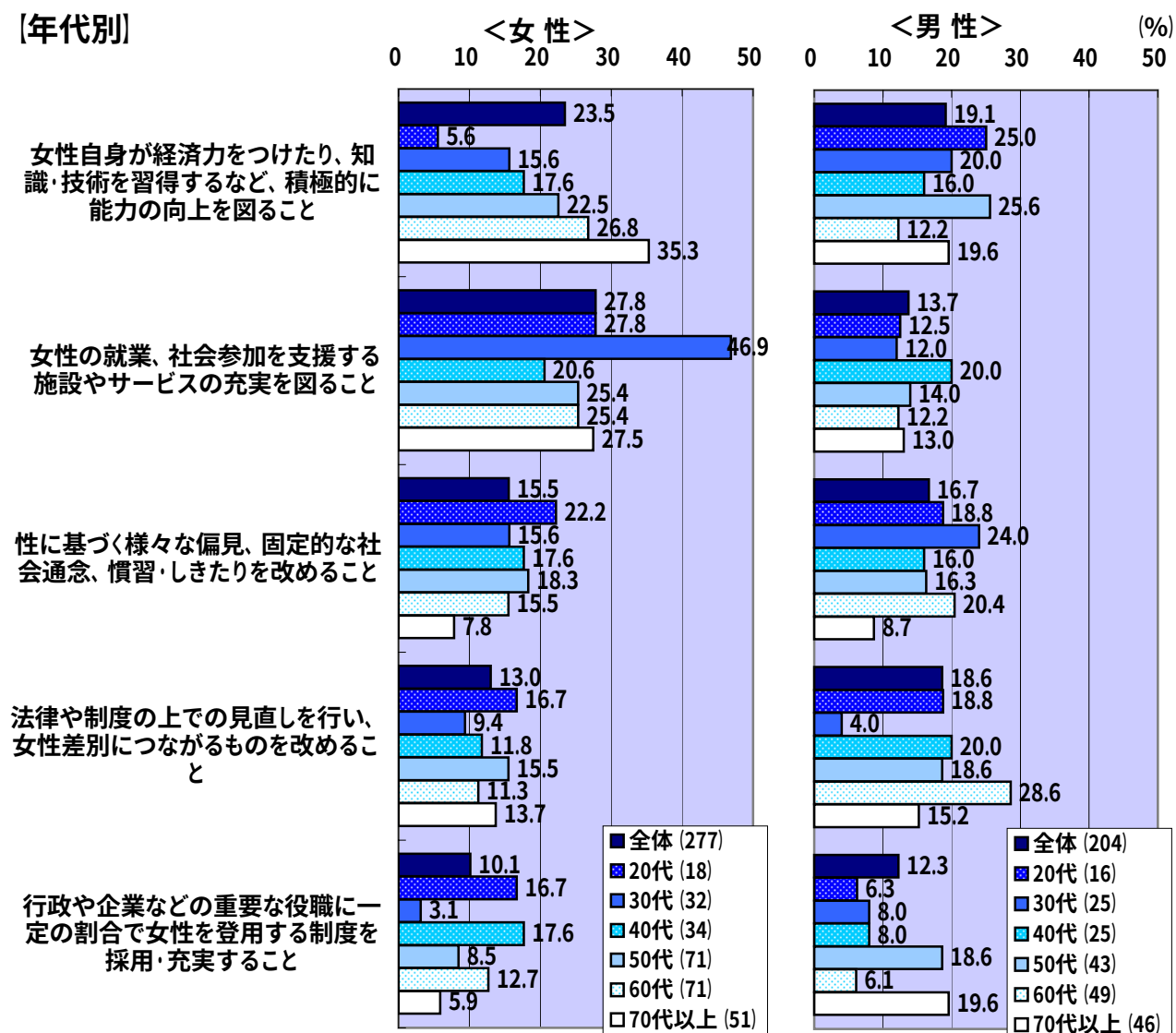
一方、男性は、『女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること』が19.1%と最も多く、次いで『法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること』(18.6%)、『性に基づく様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること』(16.7%)となっている。

【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、館山市では『女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること』、『女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること』が共に21.7%で最も高く、次いで『性に基づく様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること』(16.1%)となっている。

一方、千葉県調査では『女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること』(23.8%)と回答している割合が最も高く、次いで『性に基づく様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること』(22.0%)、『女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること』(21.6%)となっており、最も重要と思うことは一致している。

【年代別】



『女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること』と回答している割合は、女性は年代が高くなるほど高くなっており、70代以上の女性が35.3%と最も高くなっている。

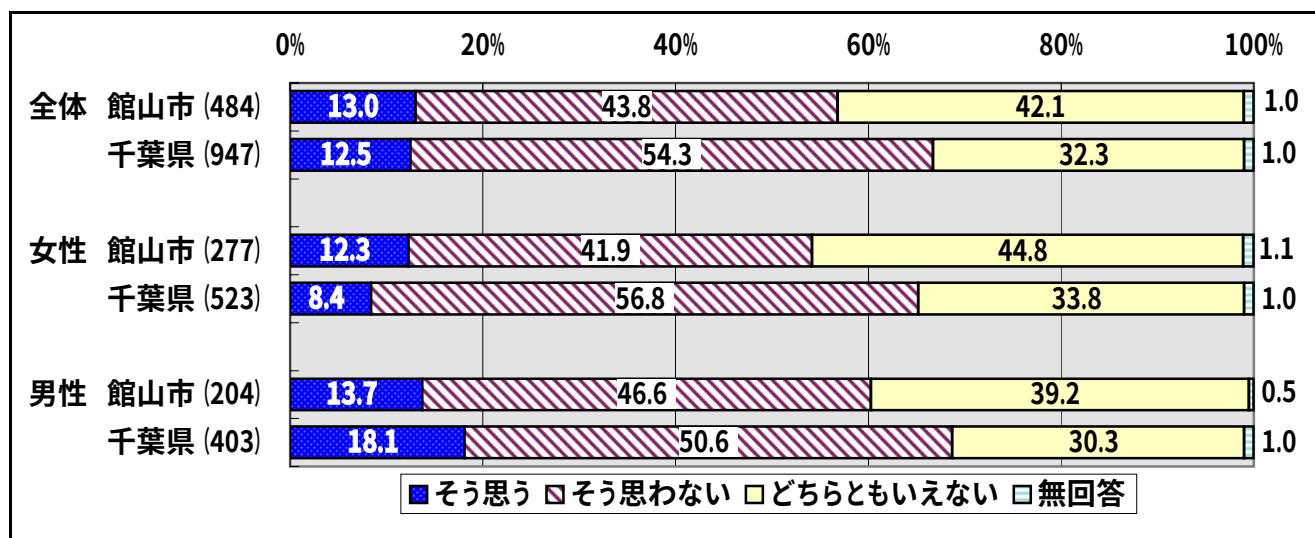
『女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること』と回答している割合は、女性では30代が46.9%、男性では40代が20.0%と最も高くなっているが、すべての年代で女性の方が男性よりも高くなっている。

『法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること』と回答している割合は、男性の60代が最も高く、28.6%となっている。

(3)「男は仕事、女は家庭」の考え方

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。次の中から1つ選んでください。

「男は仕事、女は家庭」という考えに、『そう思う』人は1割強であり、『そう思わない』人は4割強である。



「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分担意識については、『そう思わない』と回答している割合は女性で41.9%、男性で46.6%であり、男女ともに『そう思う』と回答した割合を大きく上回っている。

また、『そう思う』と回答している割合は、女性は12.3%であるのに対し、男性は13.7%となっており、男性の方が1.4ポイント高くなっている。

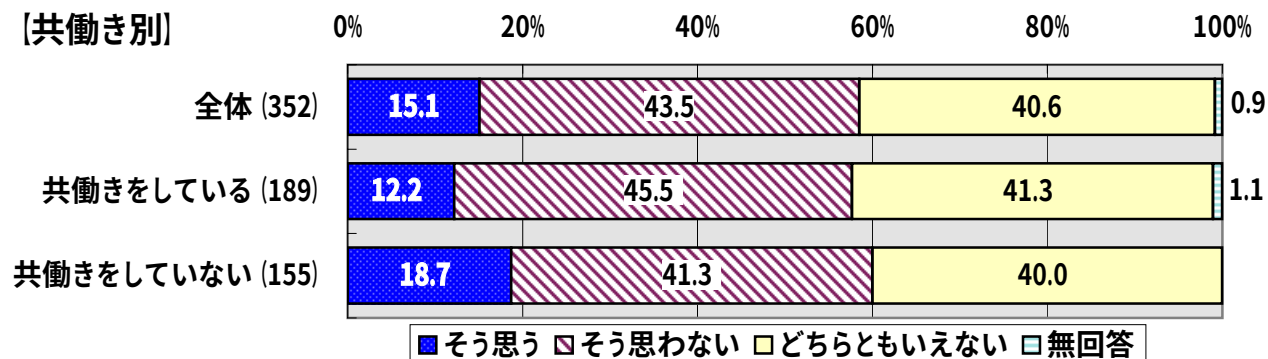
【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、『そう思う』と回答している女性の割合は、千葉県が8.4%であるのに対し、館山市は12.3%であり、約1.5倍も高くなっている。

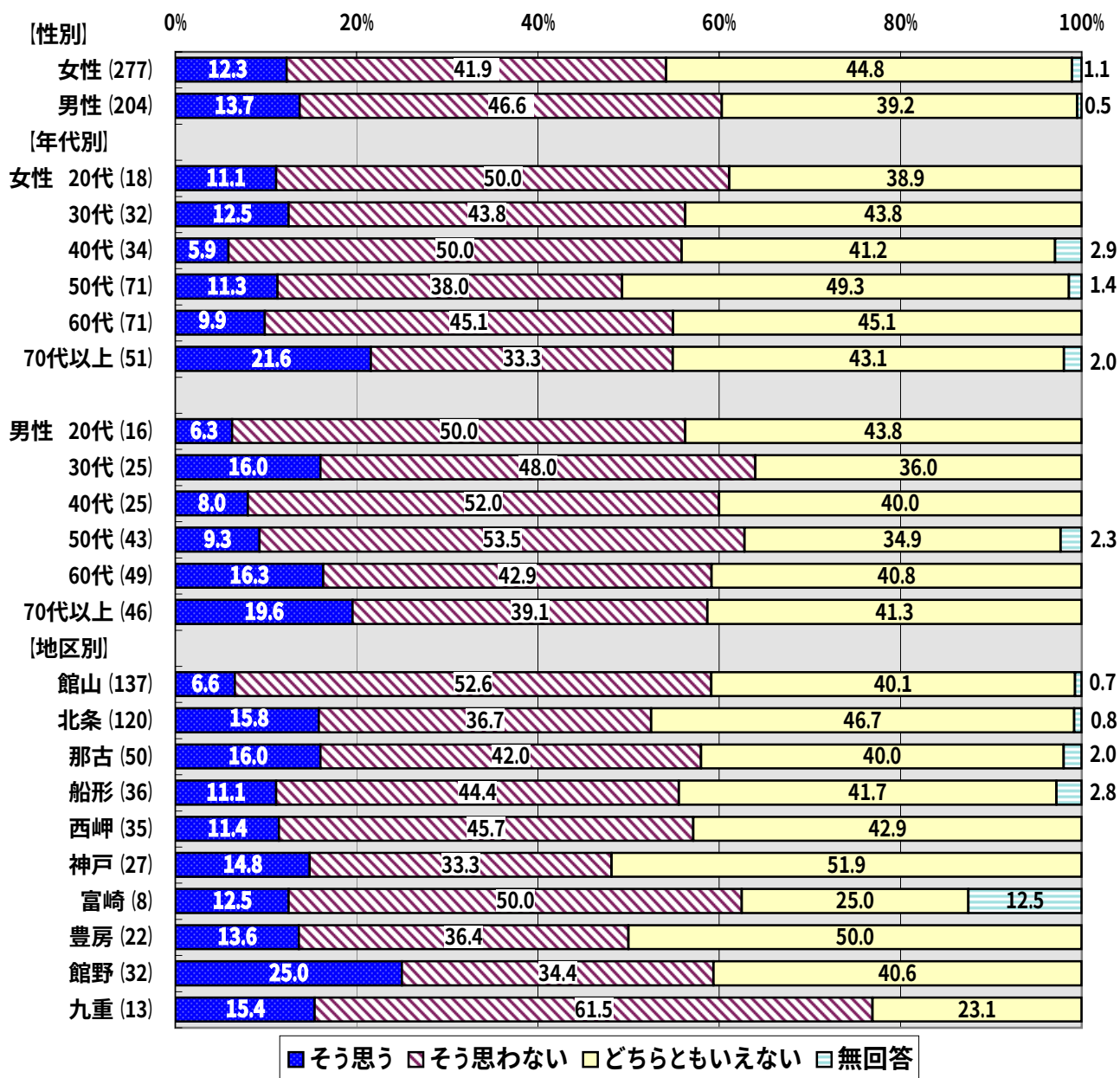
逆に、『そう思う』と回答している男性の割合は、千葉県は18.1%であるのに対し、館山市は13.7%であり、4.4ポイント低くなっている。

また、『そう思わない』と回答している割合は、男女ともに館山市の方が千葉県より低くなっている。

【共働き別】



共働きをしている人では、『そう思わない』と回答している割合が、45.5%と高くなっている。一方、共働きをしていない人では、『そう思う』と回答している割合が、共働きをしている人よりも6.5ポイント高くなっている。



【年代別】

男女ともすべての年代で、『そう思わない』と回答している割合が、『そう思う』を上回っており、最も高くなっている。『そう思う』と回答している割合は、男女ともに70代以上(女性21.6%、男性19.6%)で最も高くなっている。

【地区別】

『そう思う』と回答している割合は、「館野」で25.0%と最も高く、「館山」で6.6%と最も低くなっており、18.4ポイントの差がある。

また、『そう思わない』と回答している割合は、「九重」で61.5%と最も高く、「神戸」で33.3%と最も低く28.2ポイントの差があり、地域による差がみられる。

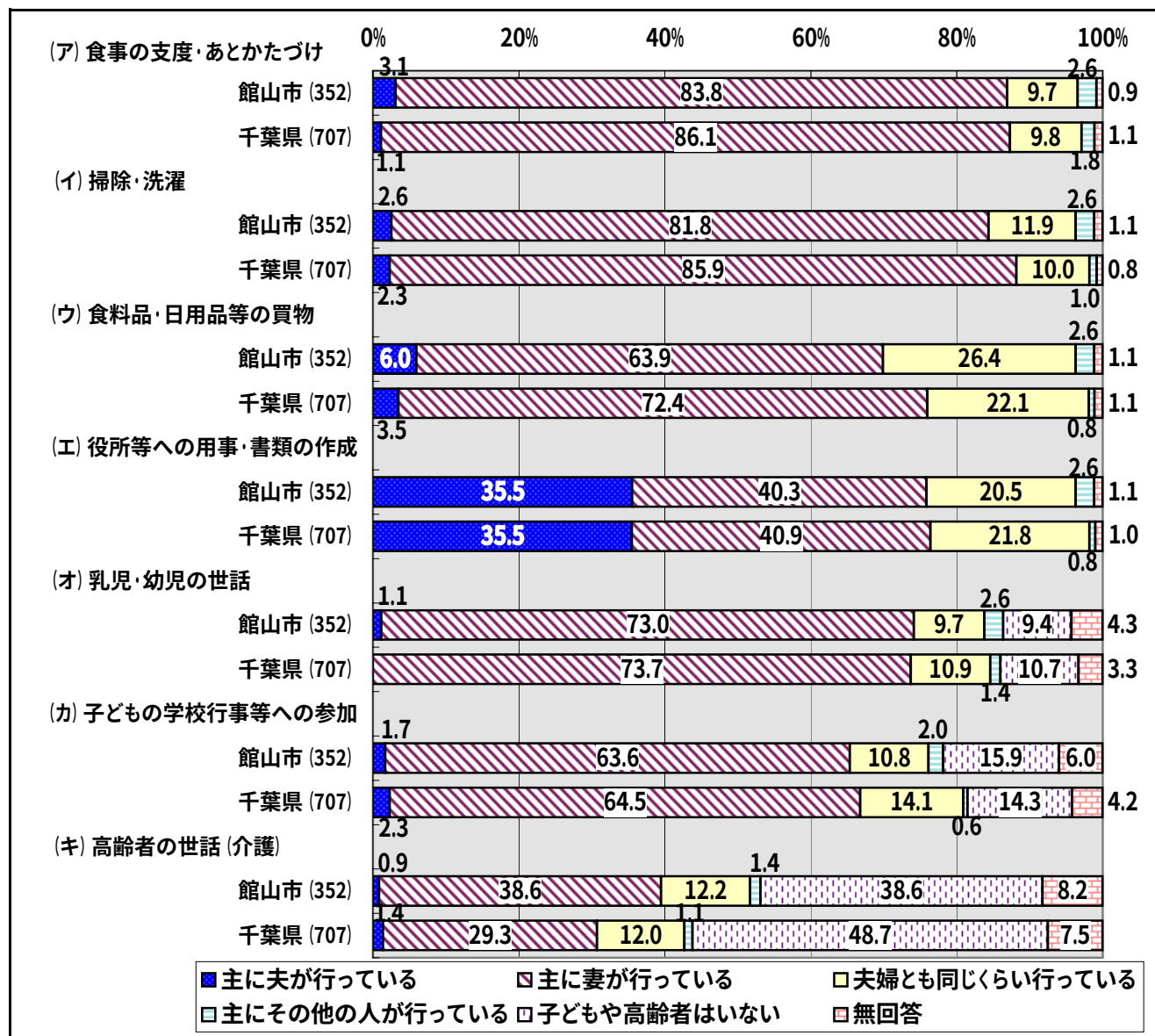
3. 家庭生活

(1) 家事等の役割分担

問6 問4で「1. 結婚している」とお答えの方に伺います。

あなたのご家庭では、次の(ア)～(キ)にあげるような日常的な仕事は、主にどなたがしていますか。次の中から1つずつ選んでください。

現実では、すべての日常的な仕事で、『主に妻』の役割が高い。



男女の役割について、既婚者に日常的な家庭の仕事7項目について、主に誰が分担しているかを聞いたところ、「食事の支度・あとかたづけ」(83.8%)、「掃除・洗濯」(81.8%)、「乳児・幼児の世話」(73.0%)は『主に妻が行っている』と回答しており、妻の役割分担が大きくなっている。

「乳児・幼児の世話」「子どもの学校行事等への参加」「高齢者の世話(介護)」は非該当者があり、他の項目に比べ回答者数は少ないが、該当者に占める『主に妻が行っている』の割合は、それぞれ73.0%、63.6%、38.6%となっており、妻の役割分担度合いがかなり高くなっている。

「役所等への用事・書類の作成」については、『主に妻が行っている』と回答している割合は40.3%にとどまり、『主に夫が行っている』が35.5%、『夫婦とも同じくらい行っている』が20.5%となっており、この項目については、他の項目に比べ、夫の役割分担が非常に高くなっている。

千葉県調査と比較すると、高齢者の世話（介護）を除くすべての項目で、『主に妻が行っている』と回答している割合は、館山市のほうが低くなっている。

0% 20% 40% 60% 80% 100%

(ア) 食事の支度・あとかたづけ

全体 (352) 3.1 83.8 9.7 2.6 0.9

共働きをしている (189) 2.1 83.1 12.2 2.6

共働きをしていない (155) 4.5 85.8 6.5 2.6 0.6

(イ) 掃除・洗濯

全体 (352) 2.6 81.8 11.9 2.6 1.1

共働きをしている (189) 2.1 82.5 12.7 2.6

共働きをしていない (155) 3.2 81.9 11.0 2.6 1.3

(ウ) 食料品・日用品等の買物

全体 (352) 6.0 63.9 26.4 2.6 1.1

共働きをしている (189) 4.8 69.3 23.3 2.6

共働きをしていない (155) 7.1 58.1 31.0 2.6 1.3

(エ) 役所等への用事・書類の作成

全体 (352) 35.5 40.3 20.5 2.6 1.1

共働きをしている (189) 29.6 45.5 22.2 2.6

共働きをしていない (155) 43.2 34.8 18.1 2.6 1.3

(オ) 乳児・幼児の世話

全体 (352) 1.1 73.0 9.7 9.4 4.3

共働きをしている (189) 1.1 76.7 10.1 8.5 1.1

共働きをしていない (155) 1.3 68.4 9.7 11.0 7.1

(カ) 子どもの学校行事等への参加

全体 (352) 1.7 63.6 10.8 15.9 6.0

共働きをしている (189) 3.2 69.3 10.6 13.8 2.1

共働きをしていない (155) 1.3 56.8 11.6 18.7 9.7

(キ) 高齢者の世話 (介護)

全体 (352) 0.9 38.6 12.2 38.6 8.2

共働きをしている (189) 1.9 43.9 14.3 37.0 2.6

共働きをしていない (155) 1.9 32.9 9.7 41.3 13.5

■主に夫が行っている ■主に妻が行っている □夫婦とも同じくらい行っている
□主にその他の人が行っている □子どもや高齢者はいない □無回答

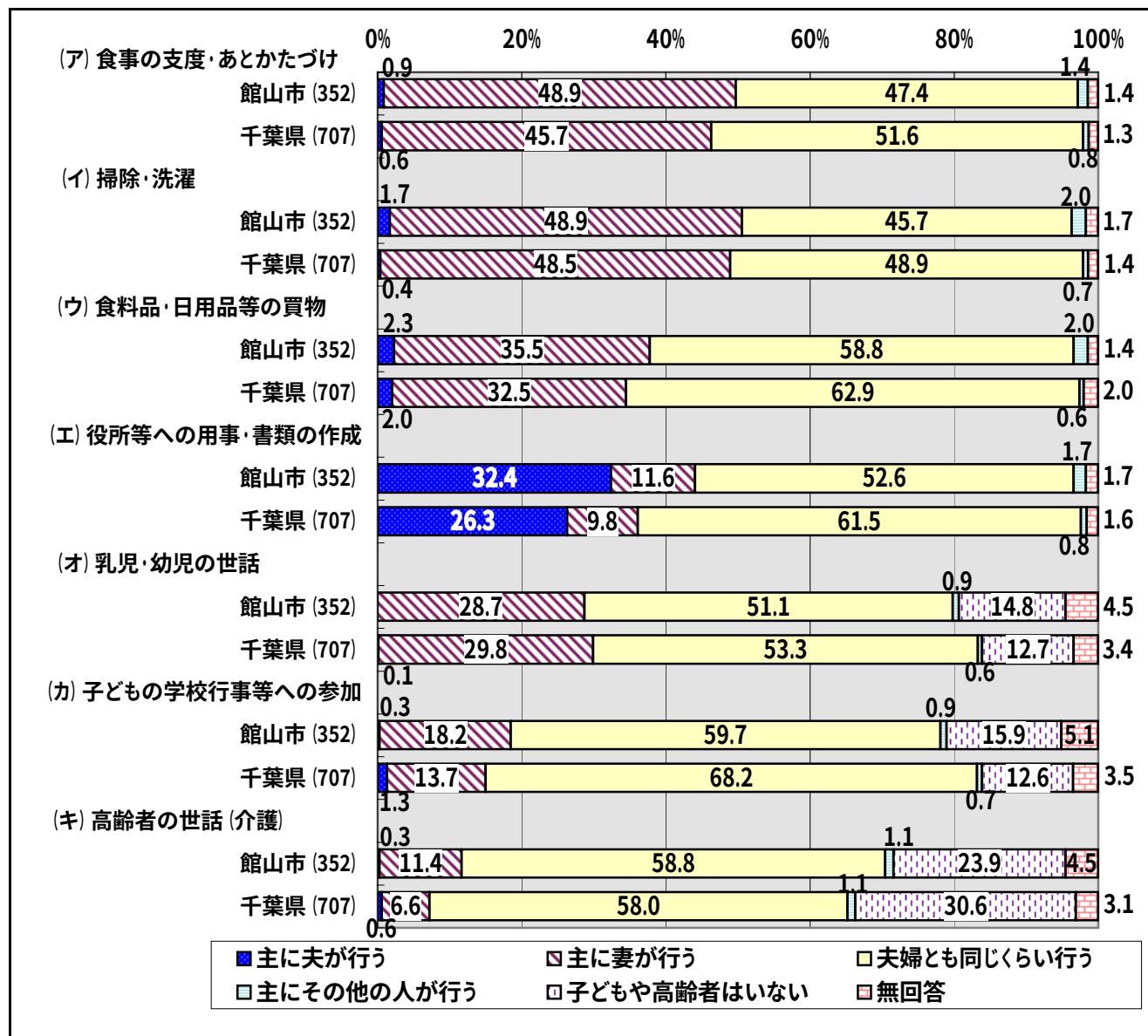
また、「役所等への行事・書類の作成」は、共働きをしている、していないにかかわらず、『主に夫が行っている』と回答している割合が高くなっているが、共働きをしていない人の43.2%が『主に夫が行っている』と回答しており、共働きをしている人に比べ夫の役割が比較的高くなっている。

(2) 理想的な家事等の役割分担

問7 問4で「1. 結婚している」とお答えの方に伺います。

では、あなたは理想として、次の(ア)～(キ)にあげるような日常的な仕事は、どのように分担するのがよいと思いますか。次の中から1つずつ選んでください。

理想では、「食事の支度・あとかたづけ」「掃除・洗濯」は『主に妻』、それ以外の日常的な仕事は『夫婦とも』の割合が高い。

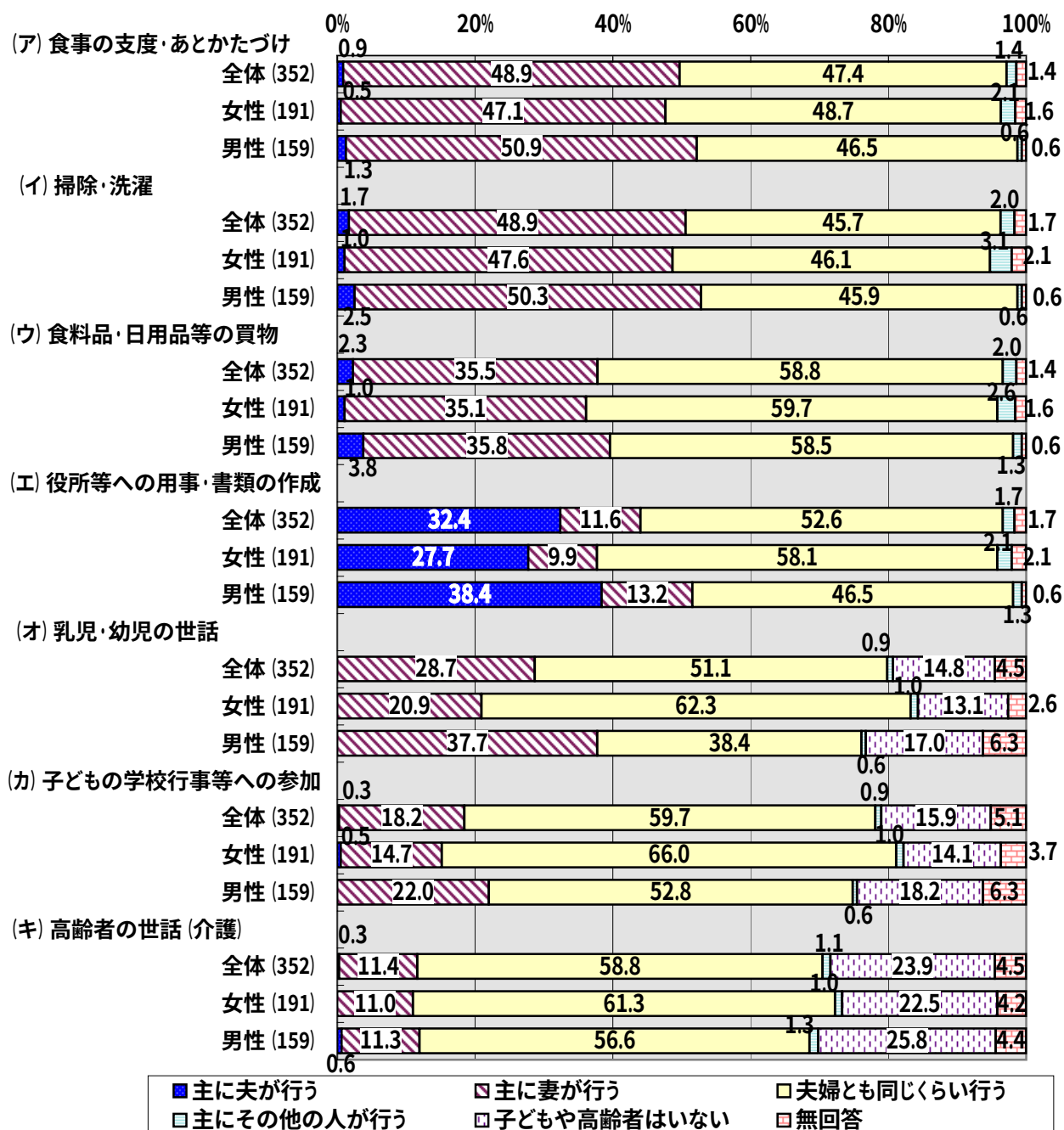


家事等の役割分担に関する理想を聞いたところ、「食事の支度・あとかたづけ」、「掃除・洗濯」を除いた全ての項目で、『主に妻が行う』よりも『夫婦とも同じくらい行う』と回答している割合が高くなっている。特に、「子どもの学校行事等への参加」(59.7%)、「食料品・日用品等の買物」、「高齢者の世話 (介護)」(共に58.8%) では、高くなっている。

【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、「高齢者の世話 (介護)」を除いたすべての項目で、館山市の方が『夫婦とも同じくらい行う』と回答している割合が低くなっており、家事等を夫婦で役割分担するという意識が、千葉県よりも低いことがわかる。

【性別】



「食事の支度・あとかたづけ」では、女性は『夫婦とも同じくらい行う』(48.7%)が『主に妻が行う』(47.1%)より1.6ポイント高いのに対し、男性は『主に妻が行う』(50.9%)が『夫婦とも同じくらい行う』(46.5%)より4.4ポイント高くなっており、理想の考えに男女の差がみられる。

また、「役所等への用事・書類の作成」については、現状と同様に『主に夫が行う』(女性27.7%、男性38.4%)と回答している割合が、男女とも高くなっている。

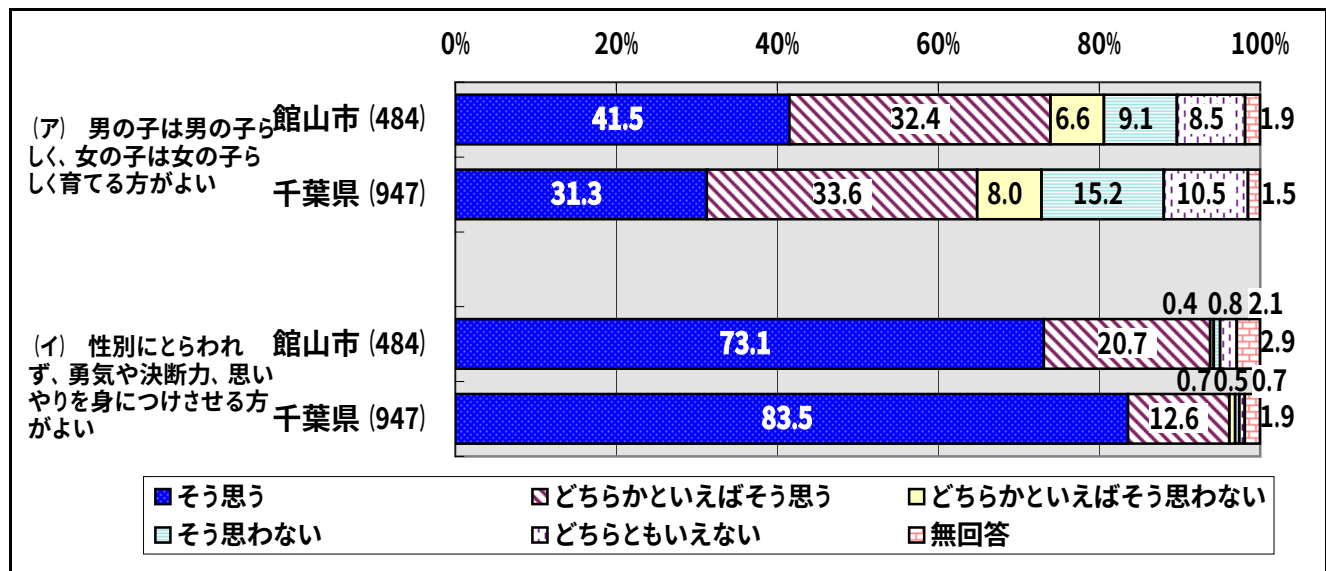
「乳児・幼児の世話」については、『主に妻が行う』(女性20.9%、男性37.7%)で男性の方が16.8ポイント高いのに対し、『夫婦とも同じくらい行う』(女性62.3%、男性38.4%)は女性の方が23.9ポイント高くなっており、男女間で逆の意識となっている。

4. 教育

子どもの教育における男女平等の意識

問8 あなたは、子どもの教育における男女平等の意識についてどう思いますか。次の(ア)～(イ)のそれぞれについて1つずつ選んでください。

子どもの教育で、「性別にとらわれず、勇気や決断力、思いやりを身につけさせたい」と考える人の割合は、9割強である。



子どもの教育における男女平等意識について聞いたところ、すべての項目で、「《そう思う》」と回答している割合が、「《そう思わない》」より高くなっている。特に、「性別にとらわれず、勇気や決断力、思いやりを身につけさせる方がよい」で《そう思う》と回答している割合は93.8%と、非常に高くなっている。

【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、「《そう思う》」と回答している割合は、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」(館山市73.9%、千葉県64.9%)で、館山市のほうが9ポイント高くなっている。一方、「性別にとらわれず、勇気や決断力、思いやりを身につけさせる方がよい」(館山市93.8%、千葉県96.1%)では、館山市のほうが若干低くなっている。

また、「《そう思わない》」と回答している割合は、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」(館山市15.7%、千葉県23.2%)で、館山市のほうが7.5ポイント低くなっている。

・《そう思う》＝「《そう思う》」「《どちらかといえばそう思う》」の合計

・《そう思わない》＝「《どちらかといえばそう思わない》」「《そう思わない》」の合計

(ア) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい

女性の70.0%、男性の78.9%が《そう思う》と回答しており、男女ともに肯定的な回答が多くなっている。

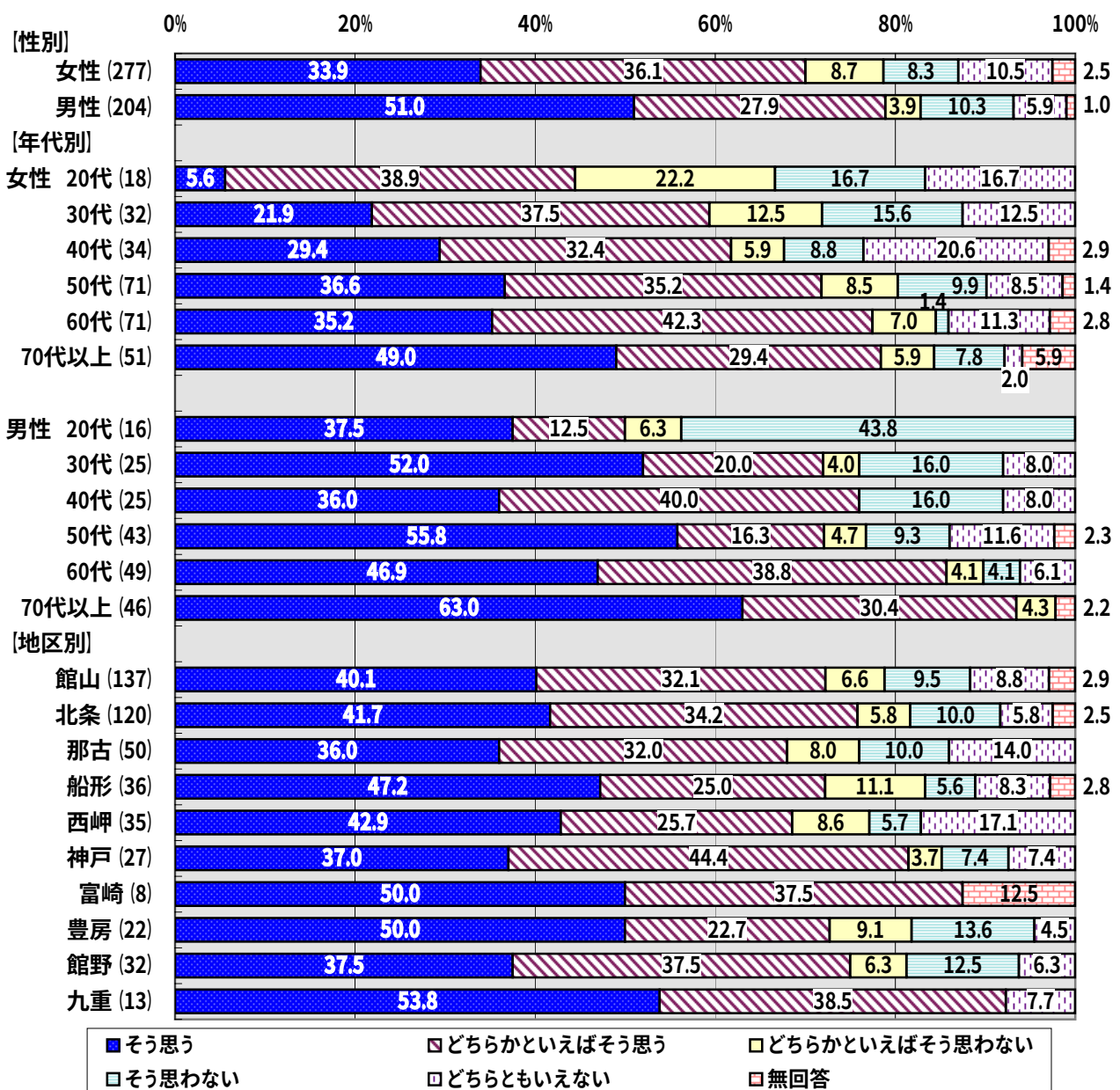
【年代別】

男性の20代を除くすべての年代で、《そう思わない》より《そう思う》と回答している割合が高くなっている。

また、男女とも70代以上（女性78.4%、男性93.4%）で《そう思う》が最も高くなっている。

【地区別】

《そう思う》と回答している割合が、「九重」（92.3%）で他の地区よりも高く、最も低い「那古」（68.0%）との差は24.3ポイントであり、地域による差が見られる。



(イ) 性別にとらわれず、勇気や決断力、思いやりを身につけさせる方がよい

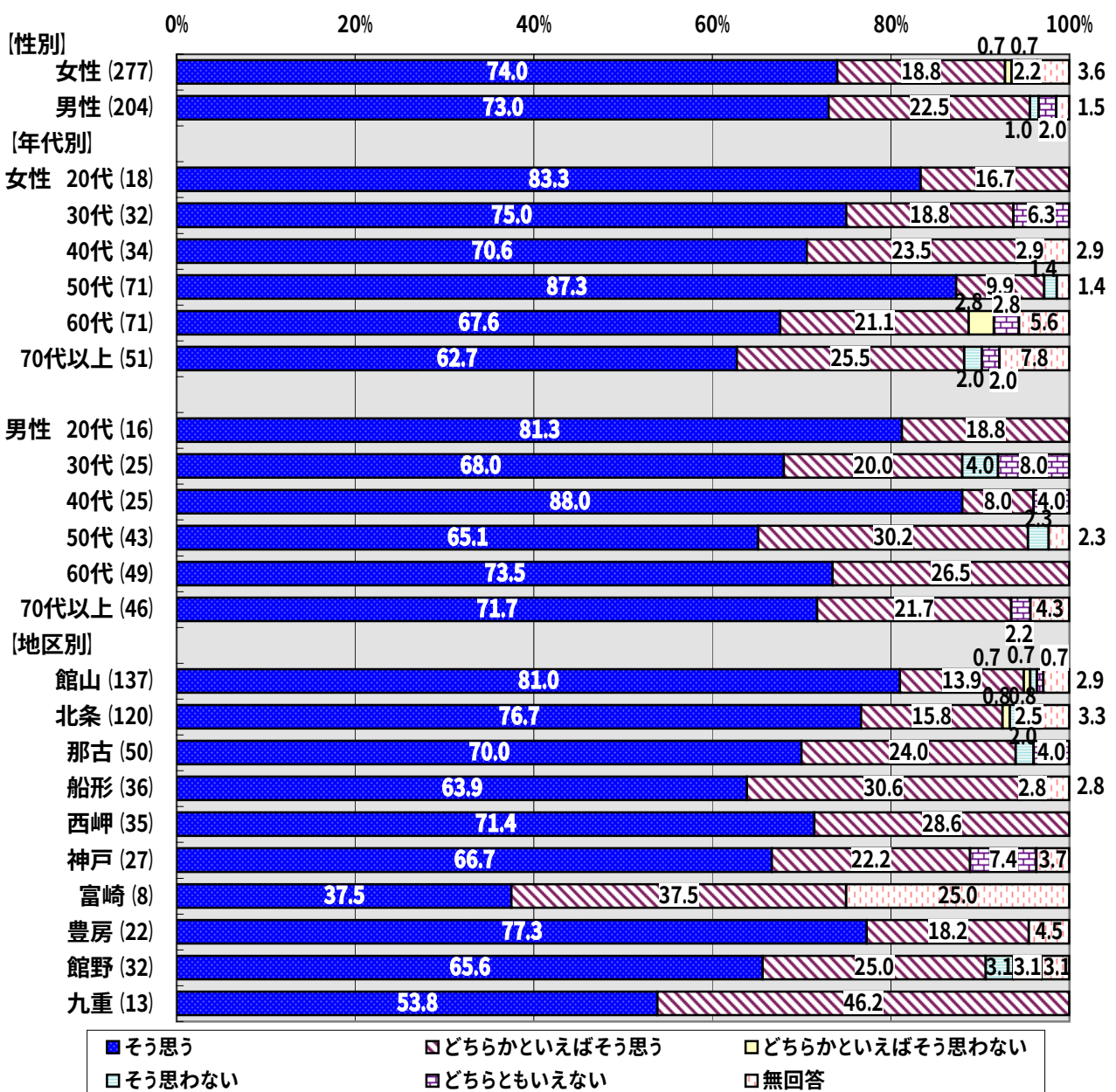
女性の92.8%、男性の95.5%が《そう思う》と回答しており、男女とも圧倒的に高い割合となっている。

【年代別】

男女ともすべての年代で、《そう思う》と回答している割合が、圧倒的に高くなっている。中でも20代の男女、及び男性の60代では、すべての人が《そう思う》と回答している。

【地区別】

すべての地区で、《そう思う》と回答している割合が、最も高くなっている。特に、「西岬」「九重」では、すべての人が《そう思う》と回答している。

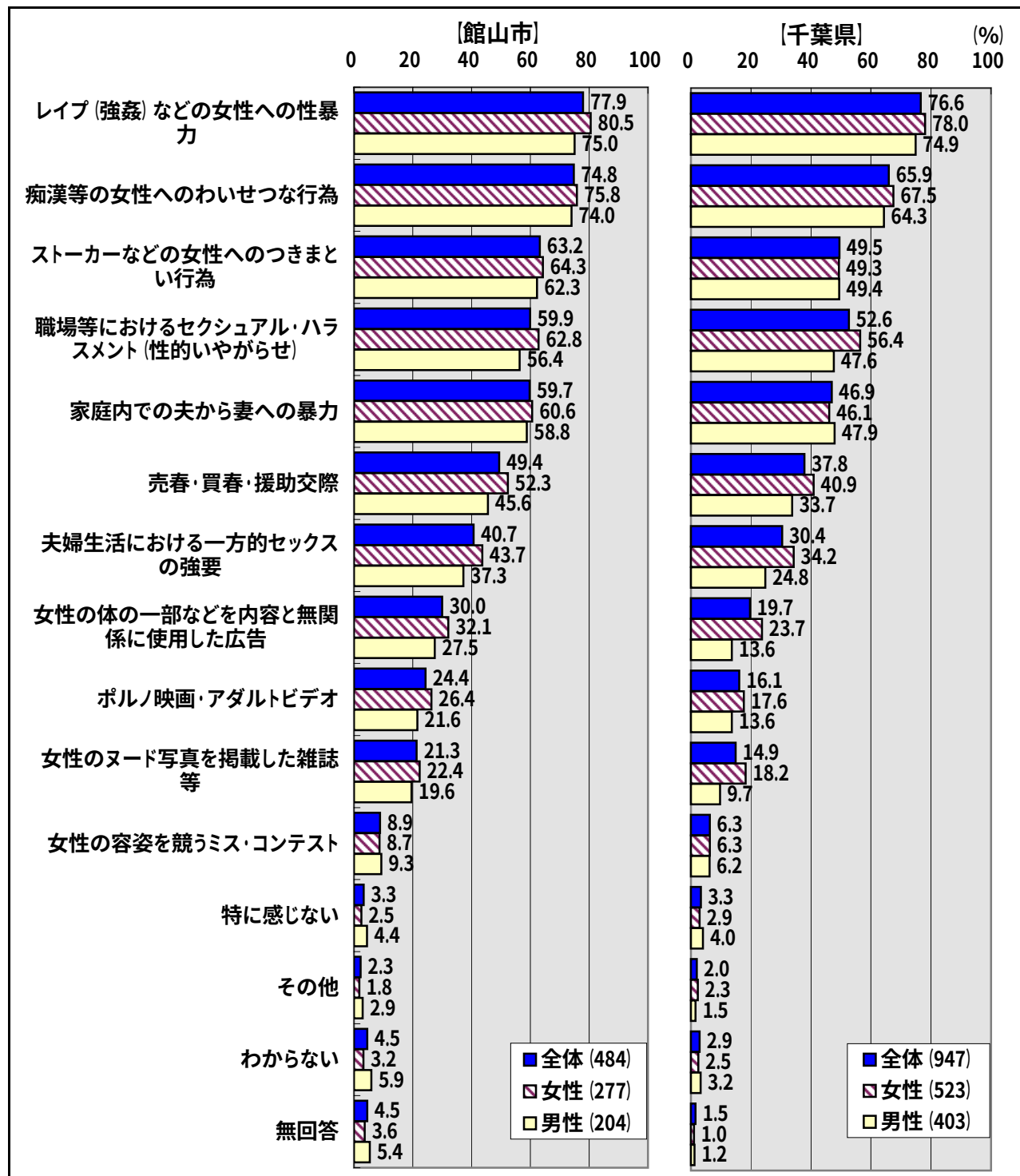


5. 人権

(1) 女性の人権が侵害されていると感じること

問9 あなたは、女性の人権が侵害されていると感じるのは、どのようなことについてでしょうか。次の中から該当するものすべてを選んでください。

女性の人権が侵害されていると感じる人の割合が最も高いのは、『レイプ(強姦)などの女性への性暴力』である。



女性の人権が侵害されていると感じるのは、どのようなことかを聞いたところ、男女とも『レイプ(強姦)などの女性への性暴力』(女性80.5%、男性75.0%)と回答している割合が最も高く、次いで『痴漢等の女性へのわいせつな行為』(女性75.8%、男性74.0%)、『ストーカーなどの女性へのつきまとい行為』(女性64.3%、男性62.3%)となっており、男女ともに上位3位が同じ順である。

『女性の容姿を競うミス・コンテスト』を除くすべての項目において、女性の回答の割合が男性よりも高くなっている。

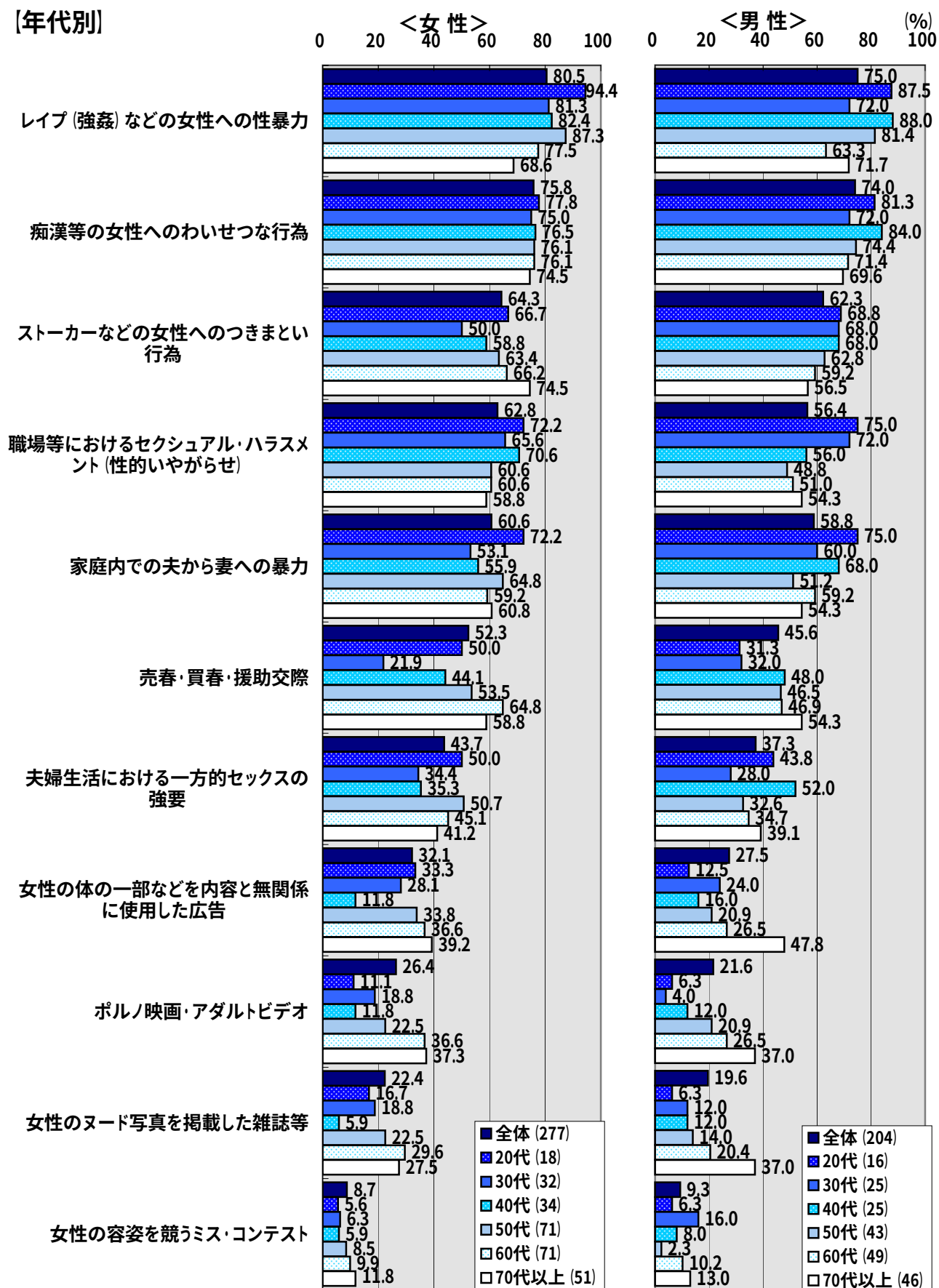
男女差がみられるものとして、『売春・買春・援助交際』(女性52.3%、男性45.6%)は6.7ポイント、『職場等におけるセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)』(女性62.8%、男性56.4%)及び『夫婦生活における一方的セックスの強要』(女性43.7%、男性37.3%)は共に6.4ポイント、それぞれ女性の回答の割合が男性より高くなっており、これらは全て性的な項目となっている。

【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、すべての項目で、館山市のほうが千葉県よりも高い割合となっており、館山市では女性の人権の侵害に対する意識が高いことがわかる。

また、館山市も千葉県も、回答の割合が最も高い項目は『レイプ(強姦)などの女性への性暴力』であり、次いで『痴漢等の女性へのわいせつな行為』となっており、上位2位が同じ順である。館山市で3位である『ストーカーなどの女性へのつきまとい行為』、及び4位である『職場等におけるセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)』が千葉県では逆に入れ替わってはいるものの、それ以降の5位以降も館山市と千葉県では同じ順となっている。

[年代別]



『レイプ(強姦)などの女性への性暴力』と回答している割合、女性の20代で最も高く94.4%となっている。

『ストーカーなどの女性へのつきまとい行為』は、女性では30代以上において年代があがるにつれて高くなっているのに対し、男性では年代があがるにつれて低くなっており、全く逆の意識となっている。

『家庭内での夫から妻への暴力』は、男女とも20代(女性72.2%、男性75.0%)が、他の年代に比べ非常に高くなっている。

『女性の体の一部などを内容と無関係に使用した広告』は男女とも40代以上において、及び『ポルノ映画・アダルトビデオ』は女性で40代以上、男性で30代以上において、それぞれ年代があがるにつれて、高くなっている。

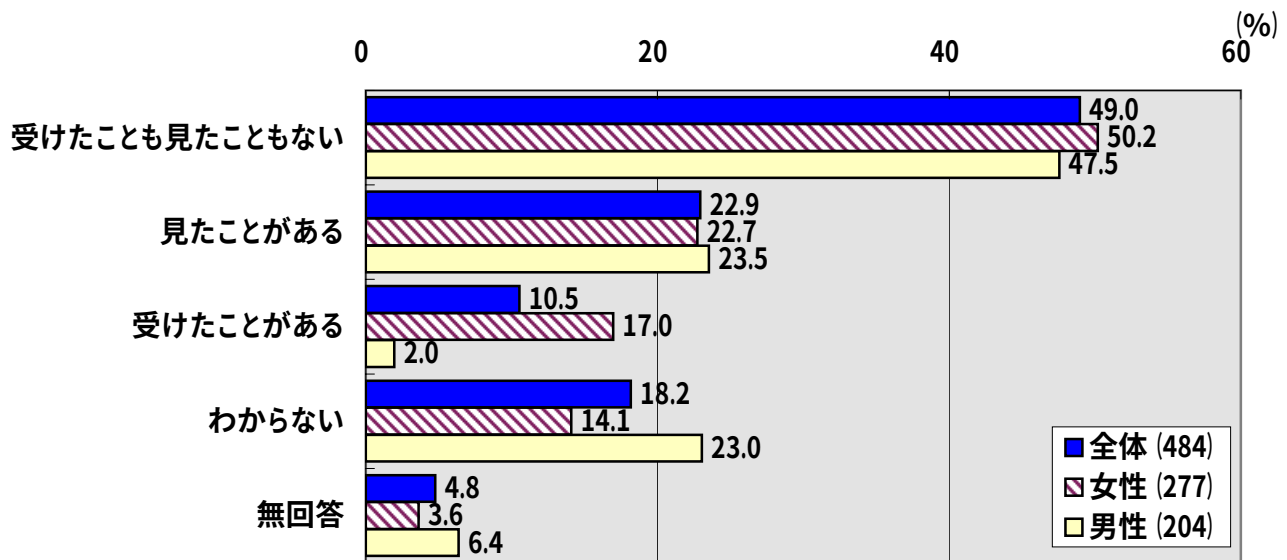
『女性のヌード写真を掲載した雑誌等』は、男性で年代があがるにつれて高くなっている。

(2) セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

問10 あなたは、職場や地域、学校などでセクシュアル・ハラスメントを受けたことや見たことがありますか。次の中から該当するものすべてを選んでください。

※セクシュアル・ハラスメント・・・相手を不快にさせる性的嫌がらせ。ここでは、立場を利用した性的関係の強要やヌードポスターの掲示など職場環境を損なうものを含む。

セクシュアル・ハラスメントを『受けたことがある』人の割合は、約1割である。

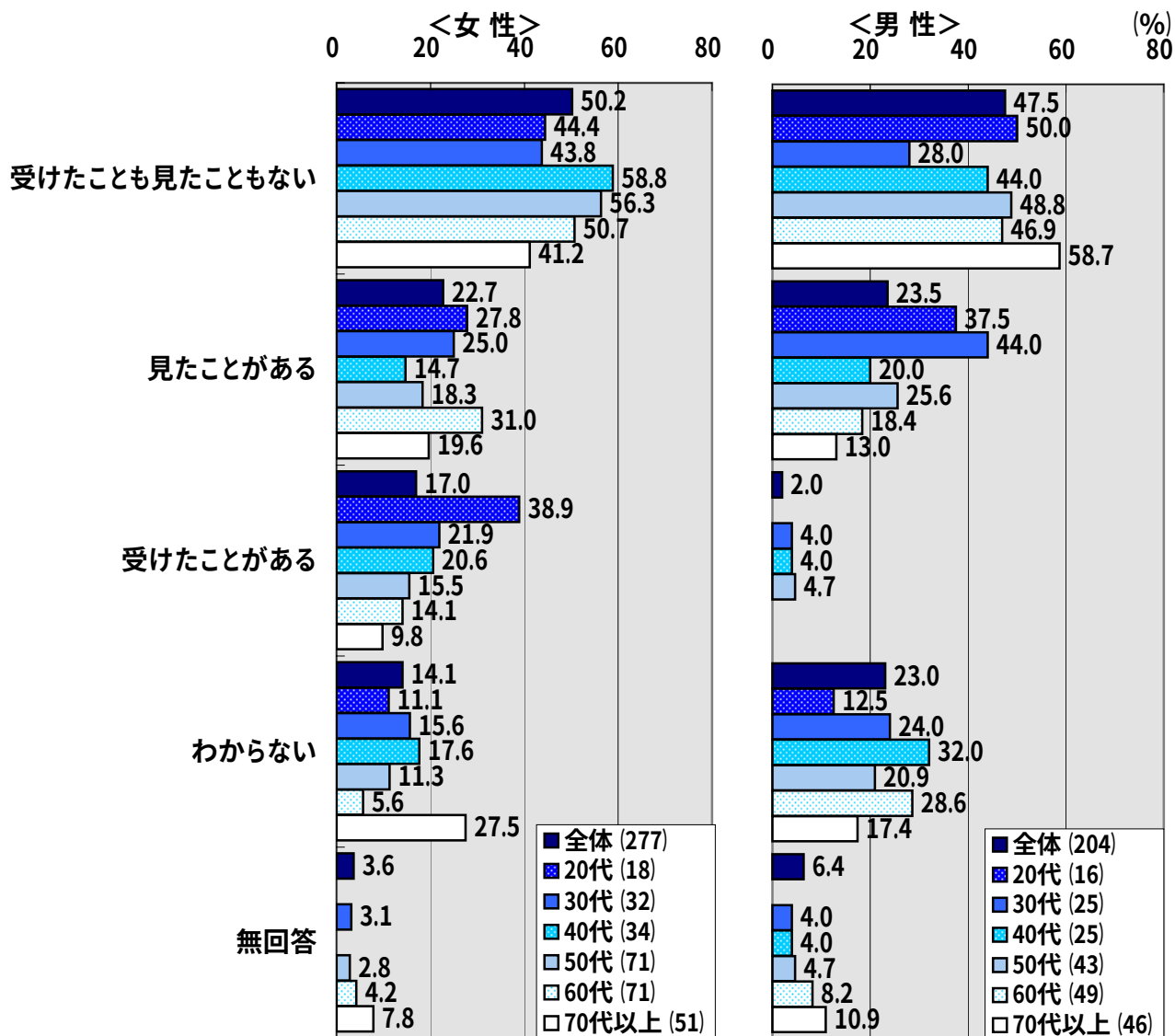


セクシュアル・ハラスメントを受けた経験を聞いたところ、『受けたことがある』と回答している割合は、女性17.0%、男性2.0%であり、女性の方が15.0ポイント高く、被害者の多くが女性であることがわかる。

また、『見たことがある』は、女性22.7%、男性23.5%であり、男女共に2割強である。

一方、『受けたことも見たこともない』は女性50.2%、男性47.5%であり、女性の方が2.7ポイント高いものの、男女共に5割前後となっている。

【年代別】



『受けたことがある』と回答している割合は、女性では年代があがるにつれて、低くなっているが、最も高い20代 (38.9%) では、4割弱の人が被害を受けたことになり、被害者の多くが若い女性であることがわかる。男性では、30代 (4.0%)、40代 (4.0%)、50代 (4.7%) で被害を受けた人が若干いる。

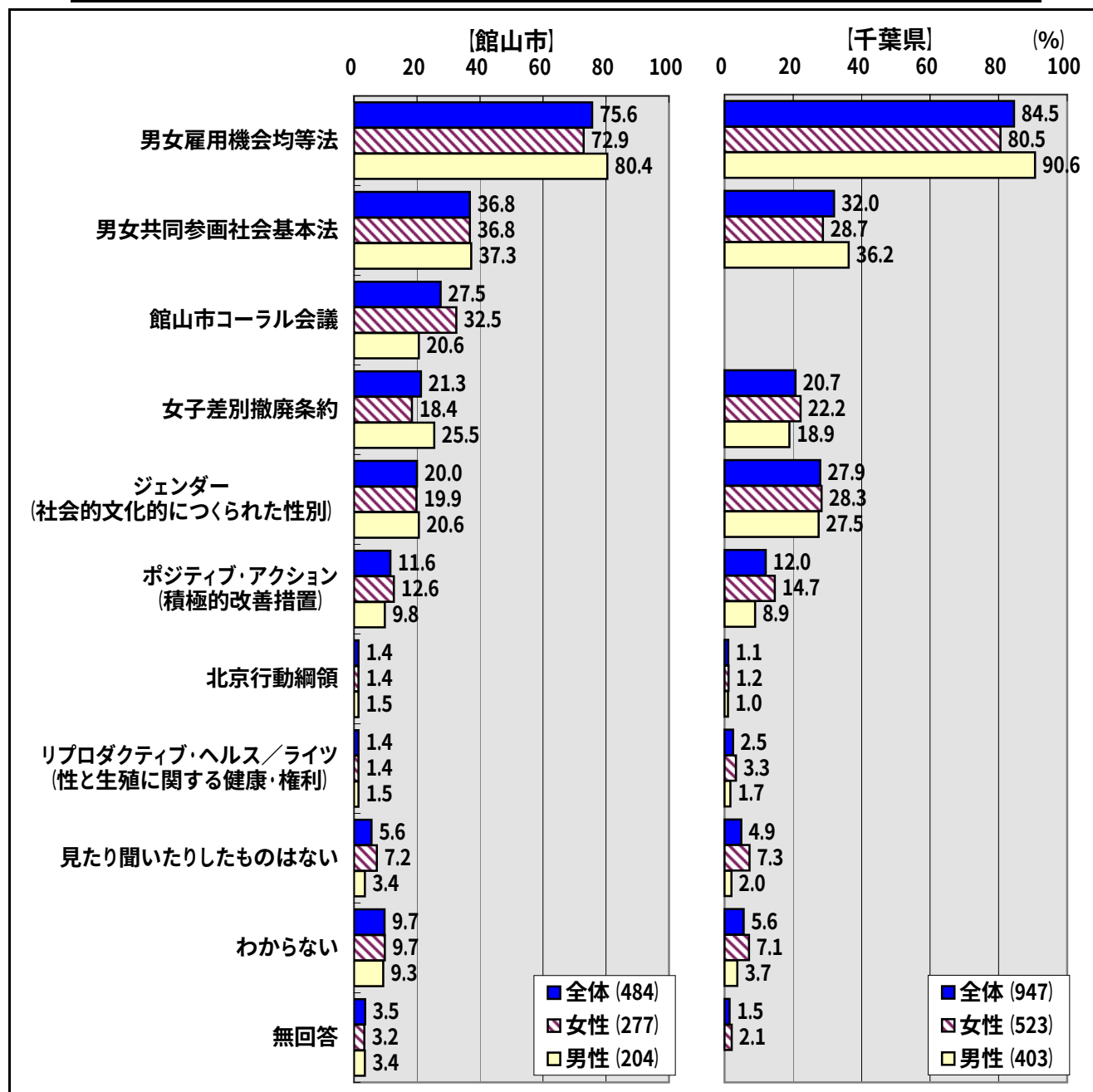
また、『見たことがある』は、男性の30代で最も高い44.0%であり、4割強の人が見たことがあることになる。

6. 用語の周知度

用語の周知度

問11 次にあげる言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。
次の中から該当するものすべて選んでください。

用語の周知度が最も高いのは、『男女雇用機会均等法』である。
なお、『館山市コーラル会議』を知っている人は3割弱である。



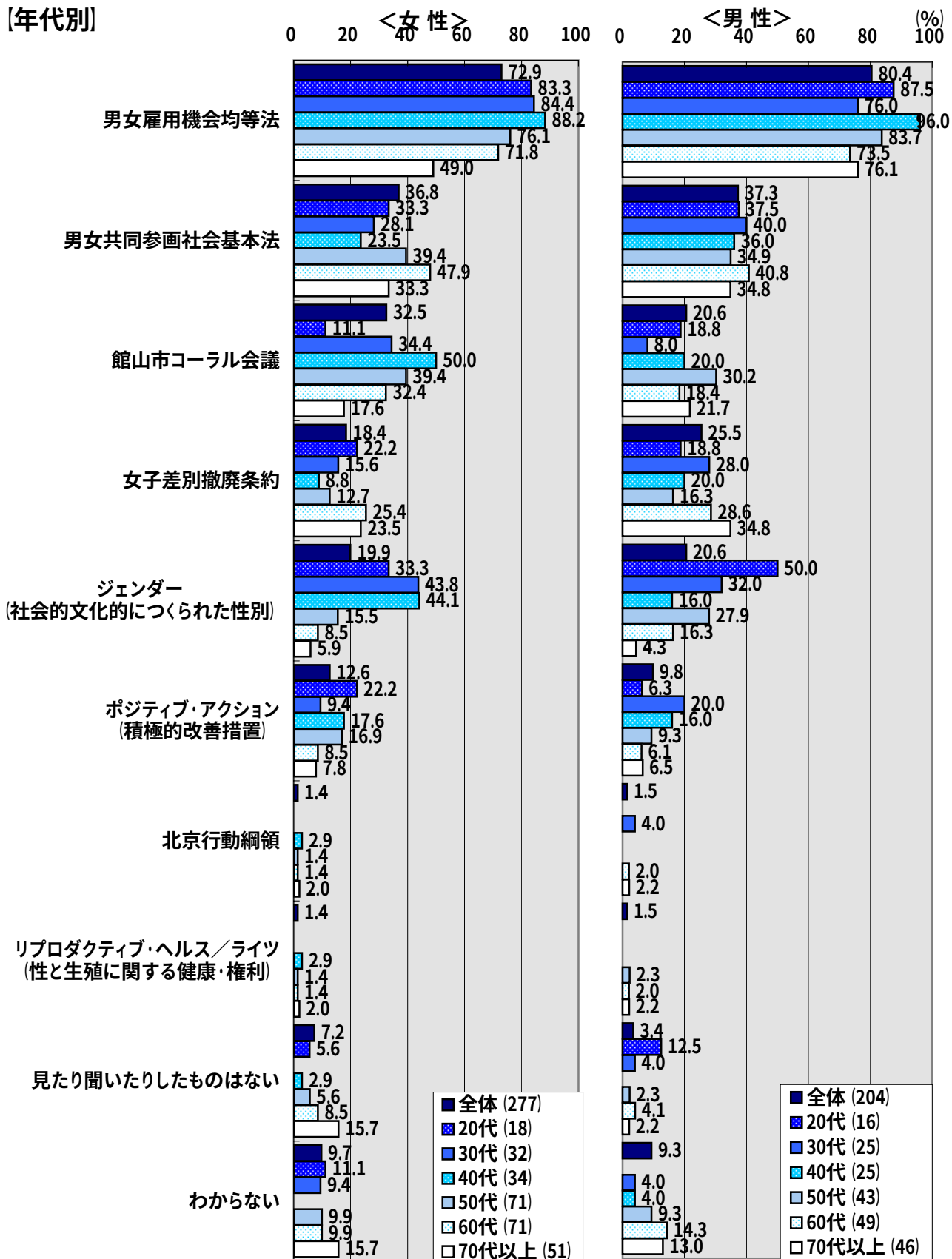
用語の周知度については、男女とも『男女雇用機会均等法』(女性72.9%、男性80.4%)と回答している割合が最も高く、次いで『男女共同参画社会基本法』(女性36.8%、男性37.3%)となっている。

館山市の附属機関である『館山市コーラル会議』(女性32.5%、男性20.6%)は、男女差があり女性の方が11.9ポイント高くなっている。また全体では27.5%となっている。

【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、『男女雇用機会均等法』、『ジェンダー (社会的文化的につくられた性別)』、『ポジティブ・アクション (積極的改善措置)』、『リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康・権利)』が、館山市の方が千葉県より低くなっている。

[年代別]



『男女雇用機会均等法』は、男女とも各年代で回答している割合が7割を超えて高くなっているものの、女性の70代以上(49.0%)が極端に低くなっている。

『ジェンダー(社会的文化的につくられた性別)』は、女性の40代(44.1%)、男性の20代(50.0%)で最も高くなっており、男女ともに若い年代層での周知度が高くなっている。

『北京行動綱領』の女性20～30代、男性20代、40～50代、及び『リプロダクティブ・ヘルス／ライツ(性と生殖に関する健康・権利)』の女性20～30代、男性20～40代で、見たり聞いたりしたことのある人が全くいないために、周知度が0%である。

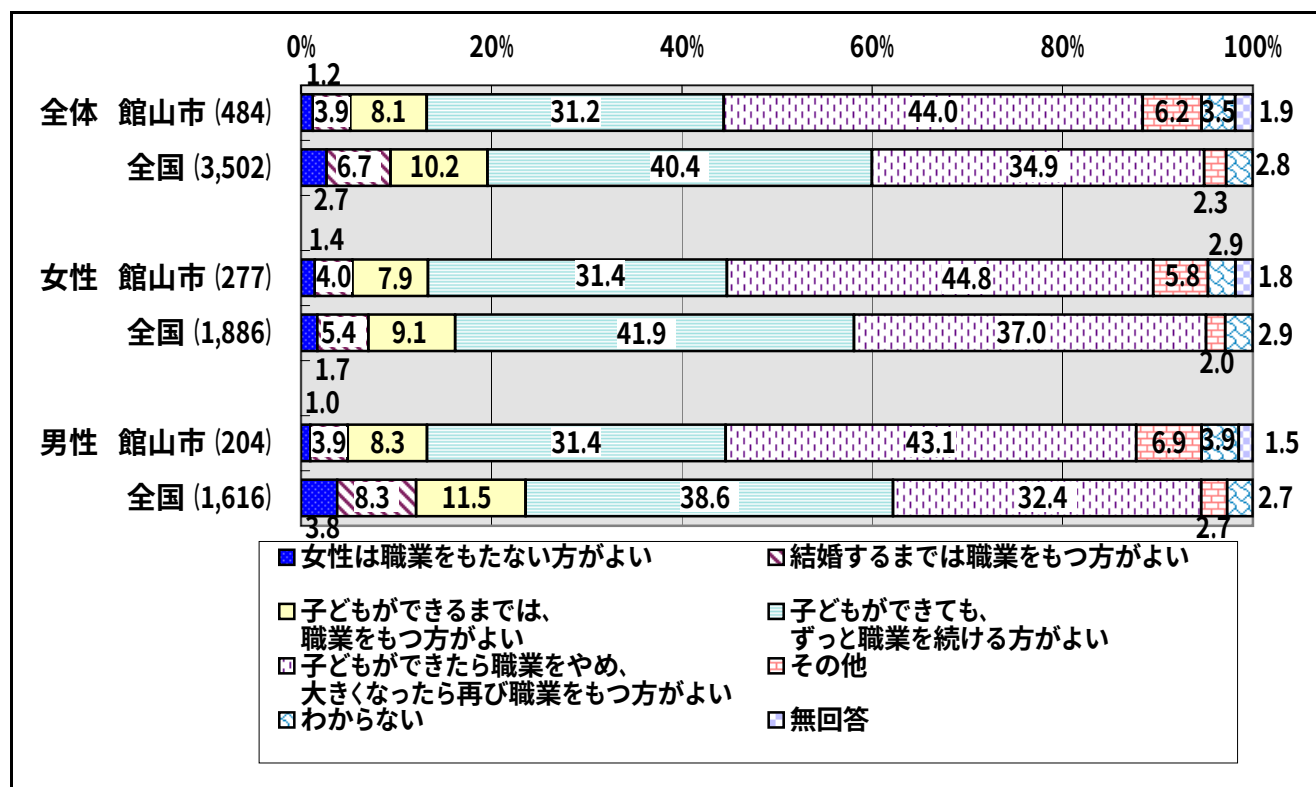
なお、『館山市コーラル会議』は、女性の40代(50.0%)が最も高く、半数の人が周知している。一方、最も低い女性の20代(11.1%)、男性の30代(8.0%)との差は非常に大きくなっている。

7. 職業

(1) 女性が職業をもつことについての考え

問13 あなたは、一般的に女性が職業をもつことについて、どのように考えますか。次の中から1つ選んでください。

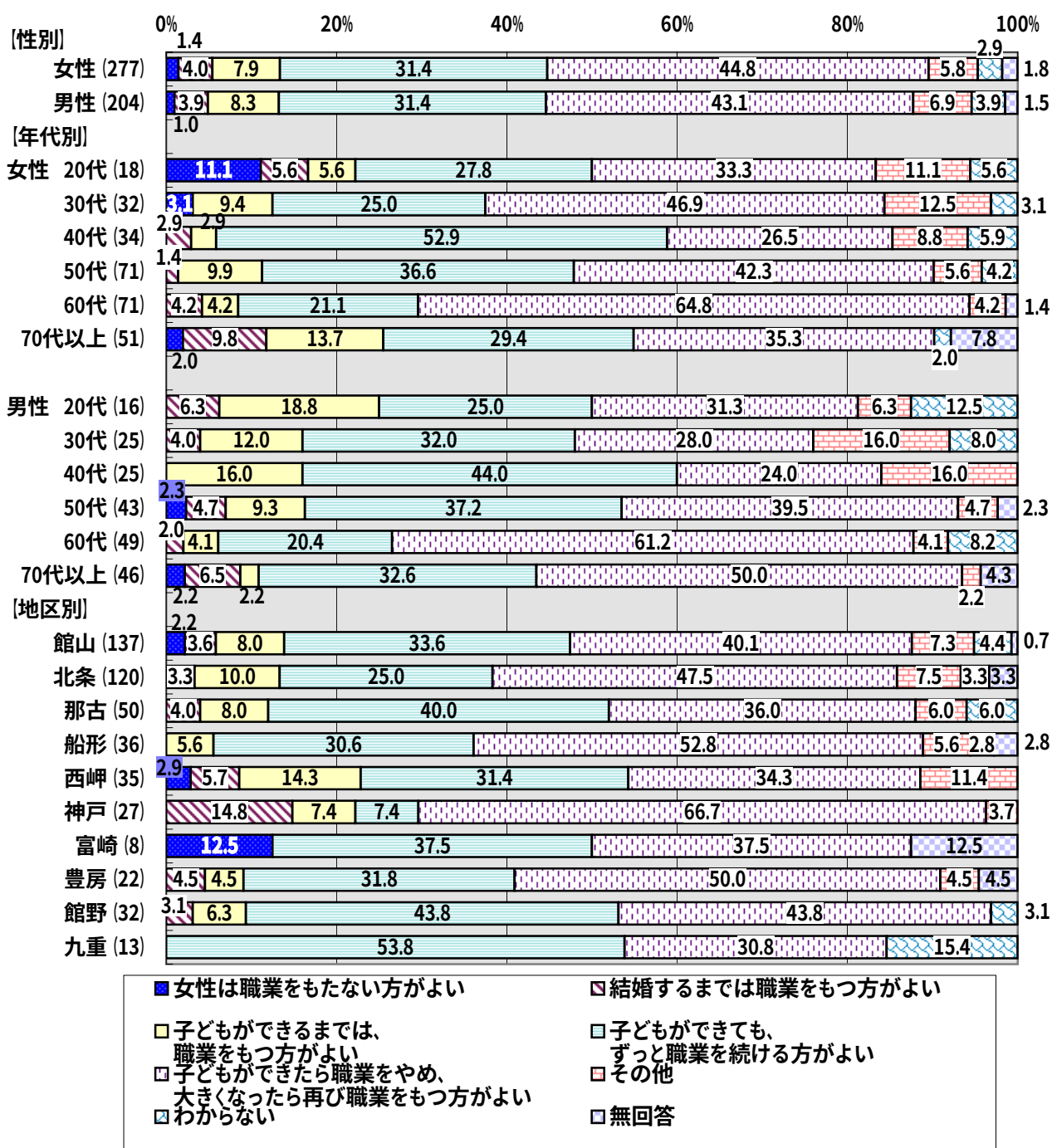
女性が職業をもつことについて、4割強の人が『子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい』と考えている。



女性が職業をもつことについて、どう考えるか聞いたところ、男女ともに『子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい』(女性44.8%、男性43.1%)と回答している割合が最も高くなっている。次いで『子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい』(男女とも31.4%)、『子どもができるまでは、職業をもつ方がよい』(女性7.9%、男性8.3%)となっており、男女共に同じ考えであることがわかる。

【全国調査との比較】

全国調査と比較すると、館山市では『子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい』と回答している割合が最も高いのに対し、国は『子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい』と回答している割合が最も高くなっており、上位2位の回答が入れ替わっている。



【年代別】

女性の40代、男性の30代、40代では『子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい』と回答している割合が最も高くなっている。一方、男女ともにそれ以外の年代では、『子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい』と回答している割合が最も高くなっている。

『女性は無職をもちたい方がよい』は、女性の20代で11.1%と最も高くなっている。

【地区別】

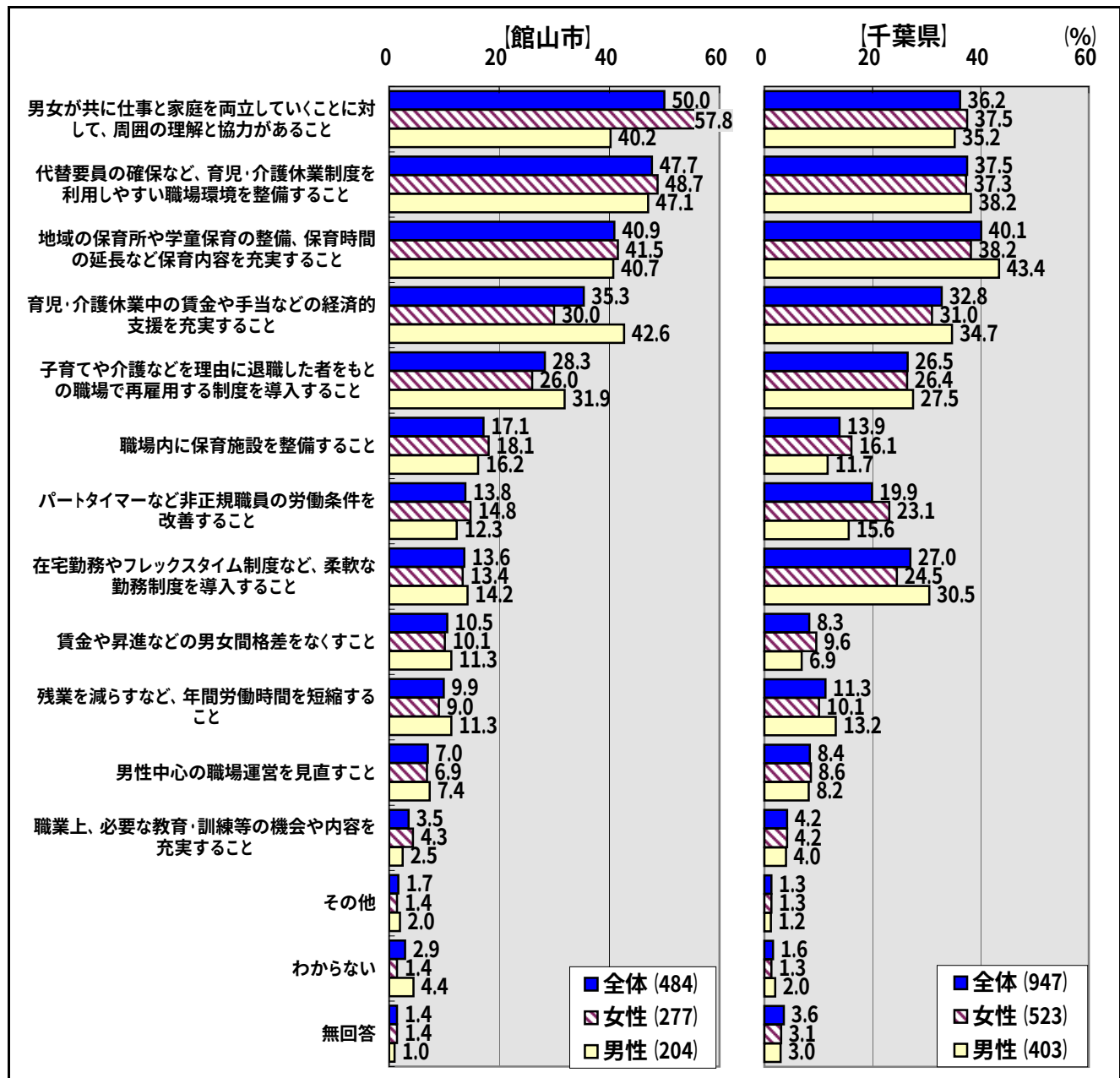
「富崎」、「館野」では、『子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい』と『子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい』が同じ割合となっている。

『結婚するまでは職業をもつ方がよい』と回答している割合は、「神戸」で14.8%と、他の地区より高くなっている。

(2) 仕事と家庭生活の両立のために必要な環境整備

問14 一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。次の中から3つ選んでください。

男女が共に仕事と家庭を両立していくために、『周囲の理解と協力』が必要だと思う人の割合は、5割である。



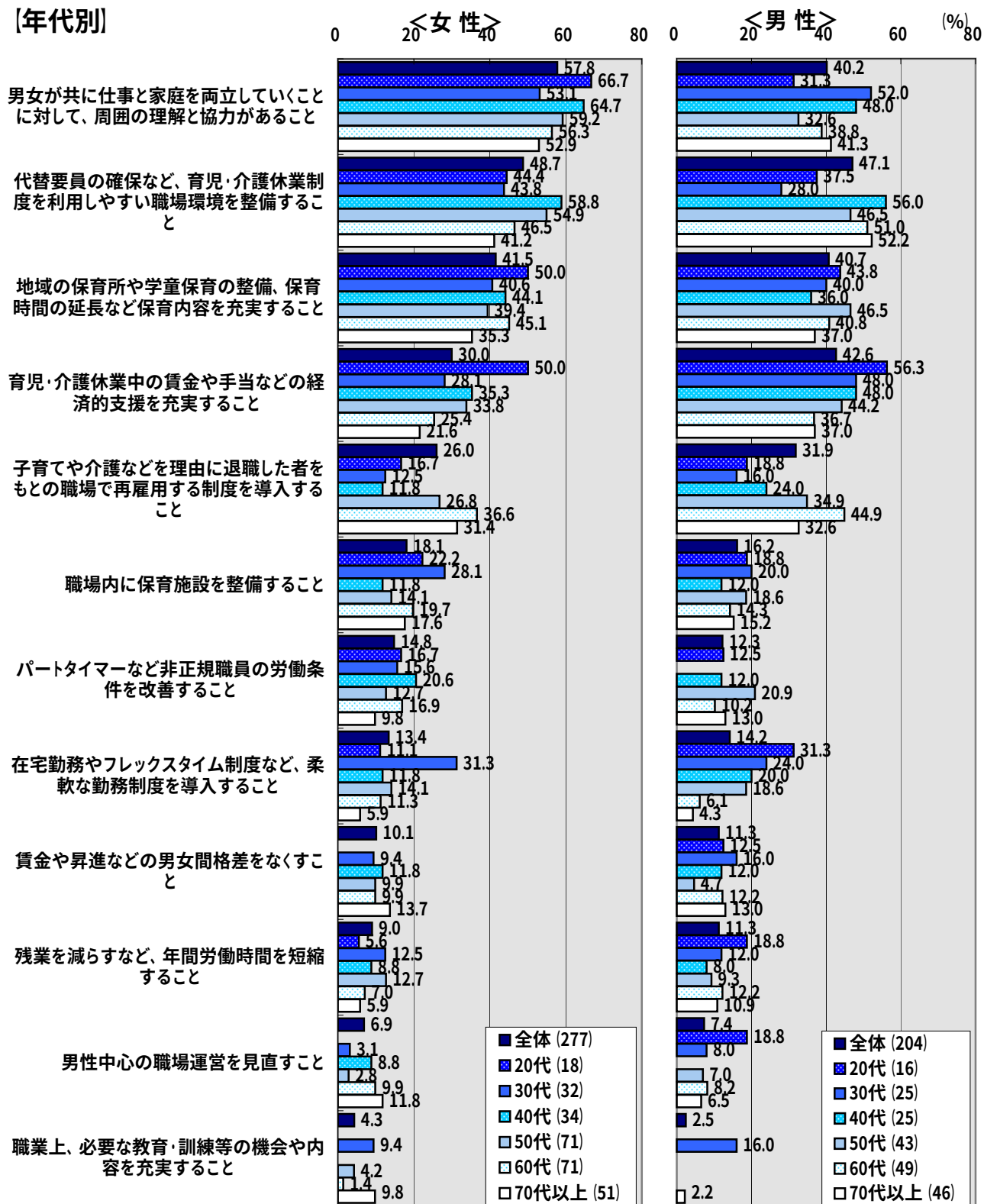
男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要な環境整備について聞いたところ、女性には『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』(57.8%)と回答している割合が最も高くなっており、次いで、『代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること』(48.7%)、『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』(41.5%)となっている。

一方、男性は『代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること』(47.1%)と回答している割合が最も高くなっており、次いで、『育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること』(42.6%)、『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』(40.7%)となっている。

【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、館山市では『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』と回答している割合が最も高いのに対し、千葉県は『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』と回答している割合が最も高くなっている。しかし、必要だと思う上位3位は順不同だが同じ項目があがっており、館山市と千葉県では同じような環境整備が必要とされている。

【年代別】

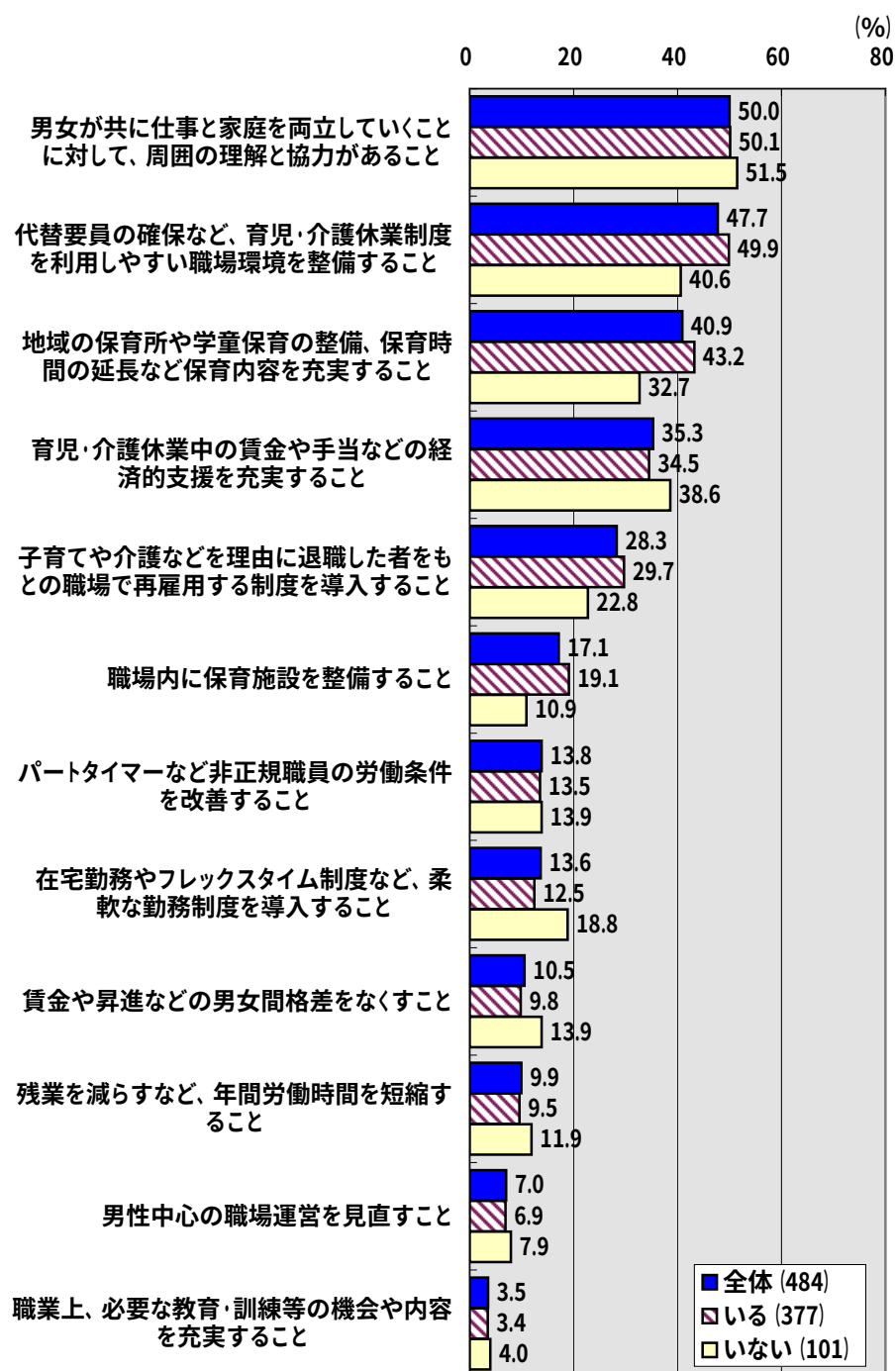


『代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること』では、男女とも40代で(女性58.8%、男性56.0%)、『育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること』では、男女とも20代で(女性50.0%、男性56.3%)、『子育てや介護などを理由に退職した者をもとの職場で再雇用する制度を導入すること』では、男女とも60代で(女性36.6%、男性44.9%)、『職場内に保育施設を整備すること』では、男女とも30代で(女性28.1%、男性20.0%)回答している割合が最も高くなっている。

『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』では、女性の20代(66.7%)男性の30代(52.0%)で、『在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること』では、女性の30代、男性の20代(共に31.1%)で回答している割合が最も高くなっている。

『残業を減らすなど、年間労働時間を短縮すること』『男性中心の職場運営を見直すこと』では、男性の20代(共に18.8%)で最も高くなっている。

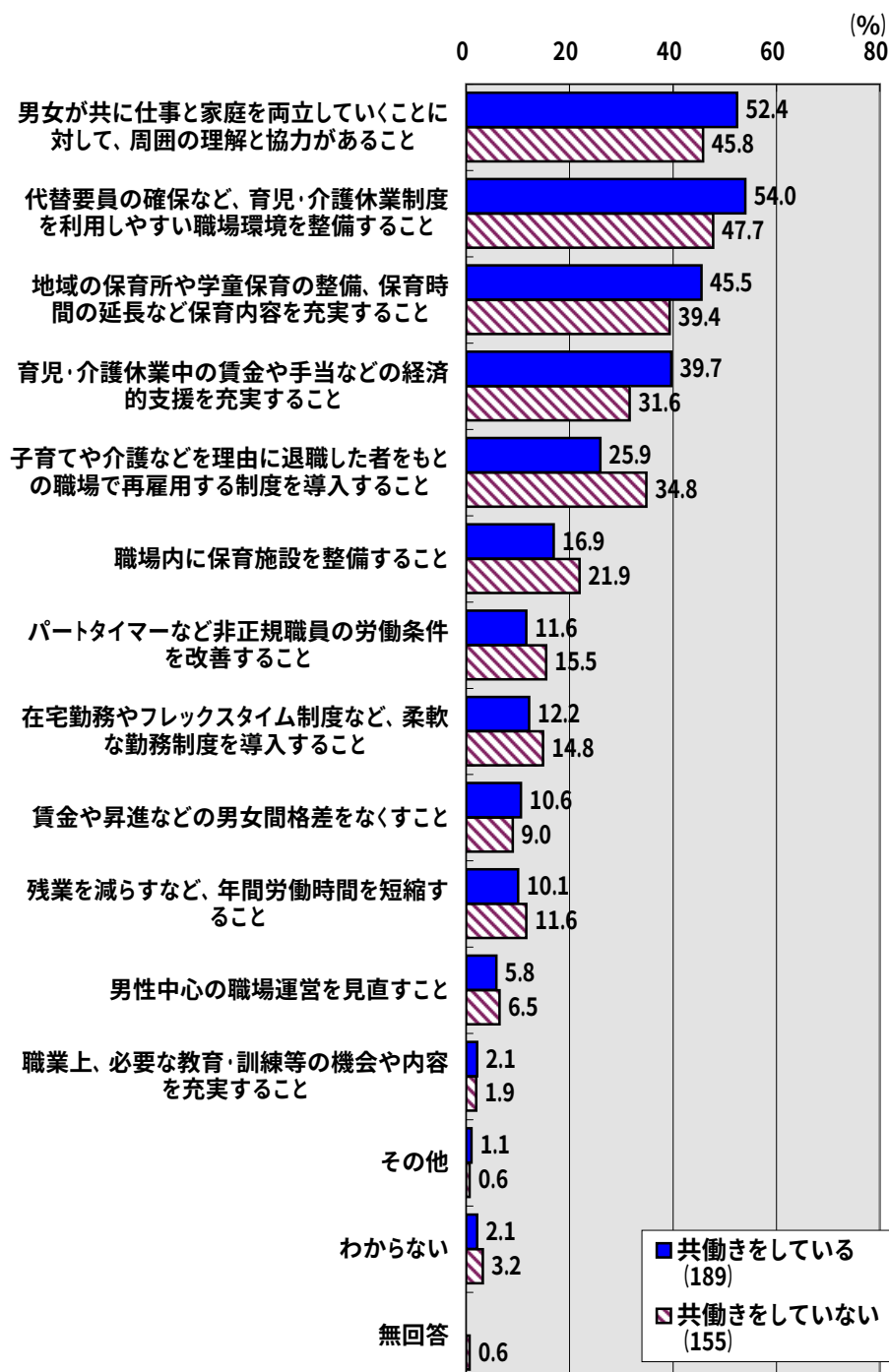
【子どもの有無別】



子どもの有無に関わらず、男女ともに『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対し
て、周囲の理解と協力があること』（いる50.1%、いない51.5%）が最も高く、次いで、『代替要
員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること』（いる49.9%、
いない40.6%）となっており、上位2位は一致している。第3位としては、子どもがいる人は『地
域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』（43.2%）と
なっているのに対し、子どものいない人は、『育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的
支援を充実すること』（38.6%）となっている。

また、『代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備するこ
と』、『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』、
『子育てや介護などを理由に退職した者をもとの職場で再雇用する制度を導入すること』、
『職場内に保育施設を整備すること』では、子どもがいる人の方がいない人よりも高い回答と
なっており、子どもの有無で差がみられる。

【共働き別】



共働きを状況に関わらず、『代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること』（共働きをしている54.0%、していない47.7%）が最も高く、次いで『男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること』（共働きをしている52.4%、していない45.8%）、『地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること』（共働きをしている45.5%、していない39.4%）となっているが、共働きをしている人のほうがしていない人よりも、高い割合となっている。

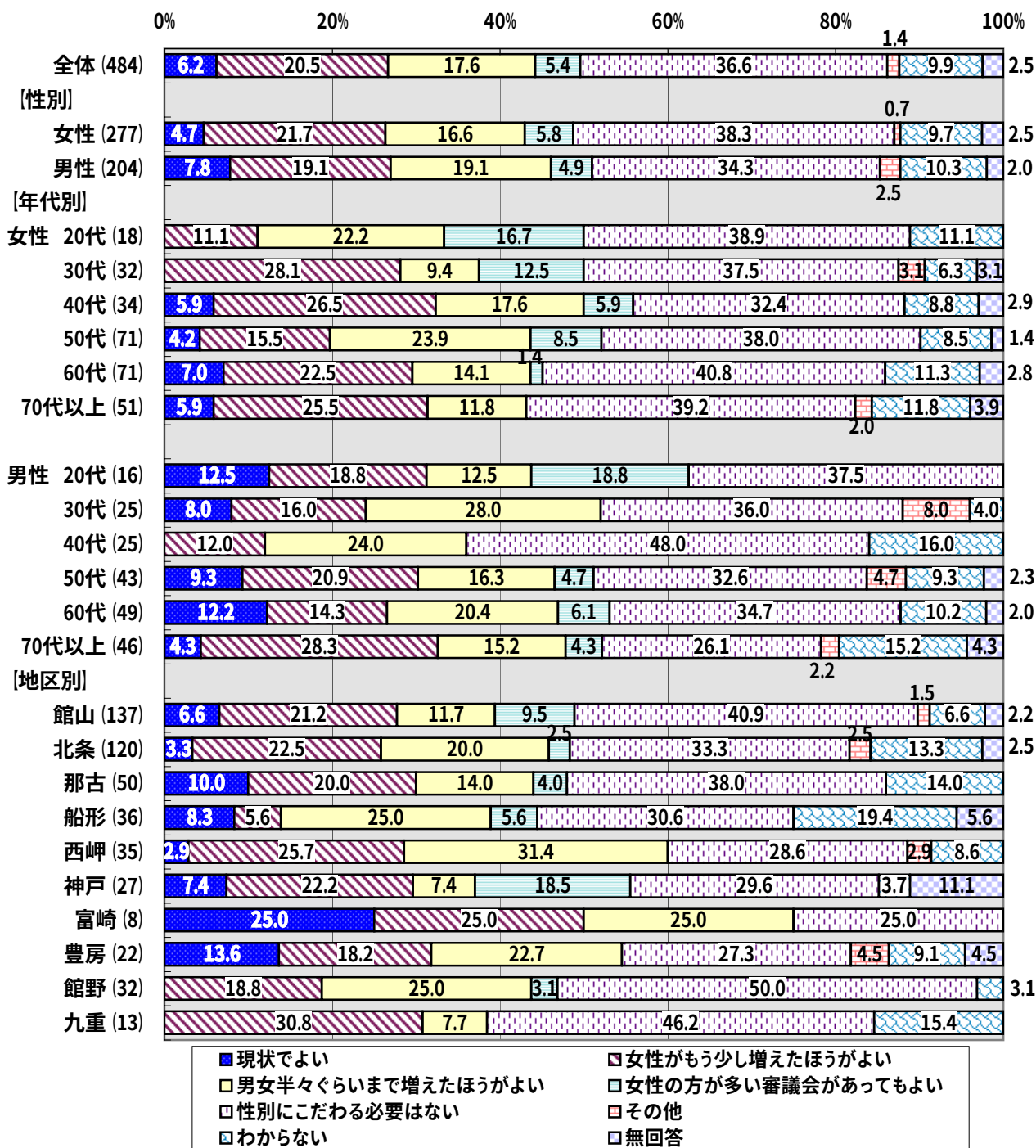
8. 社会活動等への参画

(1) 審議会等への女性委員の登用について

館山市では、男女が対等な立場で参画していくことが、男女共同参画の実現に不可欠とし、審議会などの女性委員の登用率を、国・県と同様に「30%」まで引き上げるという数値目標の設定があります。

問15 平成18年4月1日現在の登用率は「26.53%」で、まだ充分とはいえません。このことについてどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。

審議会等への女性委員の登用率の現状に対し、『性別にこだわる必要はない』と思う人の割合は4割弱である。



審議会等への女性委員の登用について聞いたところ、男女ともに『性別にこだわる必要はない』と回答している割合が最も高く、女性38.3%、男性34.3%である。

【年代別】

男性の70代以上を除いた全ての年代で、『性別にこだわる必要はない』と回答している割合が高く、中でも女性の60代(40.8%)、男性の40代(48.0%)で最も高くなっている。

一方、男性の70代では『女性がもう少し増えたほうがよい』(28.3%)と回答している割合が、最も高くなっている。

また、男女とも20代で『女性の方が多数の審議会があってもよい』(女性16.7%、男性18.8%)と回答している割合が、他の年代よりも高くなっている。

【地区別】

「西岬」、「富崎」を除くすべての地区で、『性別にこだわる必要はない』と回答している割合が最も高くなっており、中でも「館野」は最も高い50.0%であり、半数を占めている。

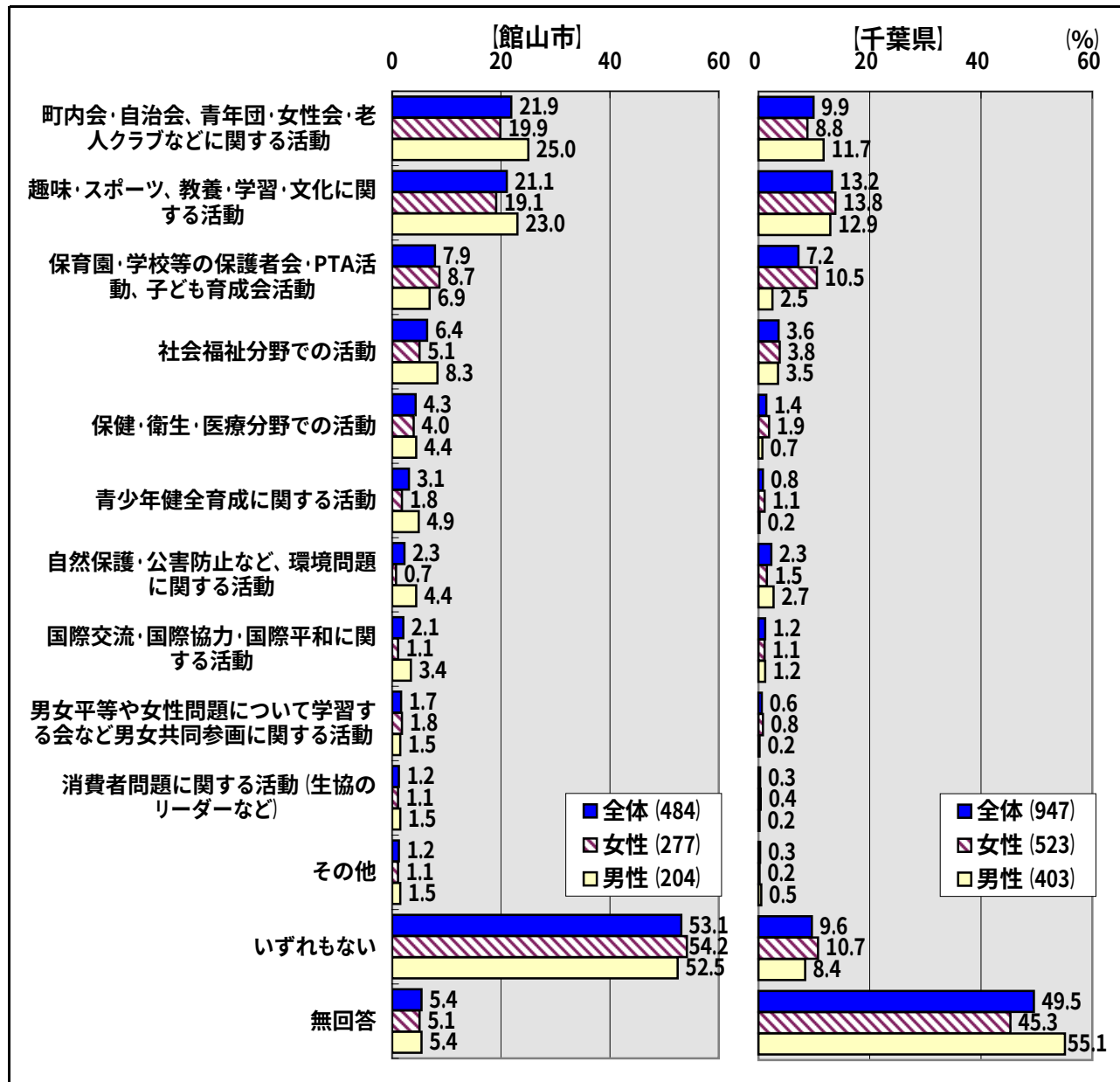
「西岬」では『男女半々ぐらいまで増えたほうがよい』と回答している割合が最も高くなっている。

「富崎」では、『現状でよい』、『女性がもう少し増えたほうがよい』、『男女半々ぐらいまで増えたほうがよい』、『性別にこだわる必要はない』がそれぞれ同割合の25.0%となっている。

(2) 地域活動への参画状況

問16 次にあげる地域活動の中で、あなたが「現在、企画から実行までの一連の取組み(参画)をしているもの」はどれですか。次の中から該当するものすべて選んでください。

現在、参画している地域活動は、『町内会・自治会、青年団・女性会・老人クラブなどに関する活動』が最も高くなっている。



地域活動の中で、現在参画している取組みについては、男女とも『町内会・自治会、青年団・女性会・老人クラブなどに関する活動』（女性19.9%、男性25.0%）と回答している割合が最も高くなっており、次いで『趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動』（女性19.1%、男性23.0%）となっている。第3位として、女性は『保育園・学校等の保護者会・PTA活動、子ども育成会活動』（8.7%）であるのに対し、男性は『社会福祉分野での活動』（8.3%）となっている。

【千葉県調査との比較】

千葉県調査と比較すると、館山市では『町内会・自治会、青年団・女性会・老人クラブなどに関する活動』と回答している割合が最も高いのに対し、千葉県は『趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動』となっている。

また、県では『保育園・学校等の保護者会・PTA活動、子ども育成会活動』（女性10.5%、男性2.5%）において女性の方が8.0ポイント高く、男女に差がみられるのに対し、館山市では女性8.7%、男性6.9%と、女性の方が若干高いものの、大きな差はみられない。

＊千葉県調査では、選択肢2「町内会・自治会、青年団・女性会・老人クラブなどに関する活動」が、「町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブなどに関する活動」となっている。